



Web Fairy Paradise

改訂版

2013年12月24日 PM22:00

第66号

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第58回 WFP フェアリー作品展(再掲)
- ・ (57-12 再出題含む)
- ・ 第73回 推理将棋出題
- ・ 第74回 推理将棋出題
- ・ 2014年 年賀詰作品展
- ・ 伝統ルールを改変する(橘圭伍)
- ・ 王手をかけると1手詰(一乗谷酔象)
- ・ 強欲な世界(たくぼん)

結果発表

- ・ 第57回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第72回 推理将棋出題

読み物

- ・ なし



2013/12

はじめに

アイソン彗星

私は小さいころに天文学者になりたかったのです。望遠鏡を買ってアンドロメダ星雲を見るのが小さいころからの夢でした。未だにその夢は実現しておりませんが死ぬまでには見てみたいと思っています。

今年期待の天文ショーにアイソン彗星がありました。私も期待していて早朝おきて双眼鏡で見よう見ようと思っていましたが、11月30日太陽に接近した際にまさかの消滅とはこれにはがっかりでした。近日点前に早起きして見ればよかったと思っても後の祭りでした。思ったらすぐやる！よい教訓になりました。写真などで見る尾を長く引っ張る姿の彗星をこれも死ぬまでには一度見てみたいものです。

話は変わりますがつい先日も凡骨生こと橋本守正さんがご逝去されました。私(詰四会)の開催した作品展(伝統ルール)にもよく解答下され、神戸の全国大会でもお話をさせて頂きました。本当に残念です。今年は多くの詰キストの訃報を聞くことになりました。仕方ないこととはいえ本当に寂しいことです。こころよりご冥福をお祈りいたします。

来年は馬年ですね。皆さんにとって良い年になりますことをお祈り申し上げます。来年こそは傑作を……

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことでも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第66号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

イラスト・素材提供 : 幻想素材サイト First Moon

<http://www.first-moon.com/>

*表紙のイラストを使用させて頂いております。

第57回WFP作品展57-12及び 第58回WFP作品展(再掲)担当:神無七郎

半期末のため今月の新規出題はお休みです。
第58回WFP作品展の出題稿を再掲載します。
また、解答者ゼロとなった57-12の解答を再募集致します。

〔第57回作品展57-12への補足説明〕

57-12は一乗谷酔象氏の長編推理将棋。

「連続王手」で「連続駒取り」からの「連続駒打ち」という派手な手順が主題です。同じ主題で57-11は16回連続でしたが、57-12はその上を行く17回連続という驚くべき回数です。皆さんも作者と共に、「連続王手で連続駒取り」の限界に挑んでください。

〔第58回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第58回の出題は全11題。半期末で解答締切が通常より長めですので、その時間を有効に活用して解答をお寄せください。今回も色とりどりの作品が並んでいます。58-5、58-8、58-10には受方持駒制限があるのでご注意ください。

58-1、58-2は上谷直希氏による複合マドラシ作品。第57回に続いての登場なので、解答者の皆さんも少し慣れてきた…わけないですよ。手数は短いですが、結構手ごわいと思います。

58-3も上谷直希氏の作品ですが、詰めるのは普通の玉ではなく、クイーンのパワーを持った玉です。特筆すべきは「打歩詰可」のルール設定。打歩詰のルールは「なぜ打歩で詰めたらだめなの？理不尽だ！」と最初は誰しもが感じると思うのですが、ここはフェアリーの世界です。打歩で詰めても良い詰将棋をどんどん作ってどんどん発表しましょう。

58-4は「安北2」という初めて登場するルール。作者は新しいルールに意欲的に挑戦している変寝夢氏です。「安北」が1つ前の枱にいる味方の駒の利きになるのに対し、「安北2」は2つ前の枱にいる味方の駒の利きになります。「安X」系のルールは行き所のない駒の定義に注意が必要ですが、「安北2」では通常の「一段目の桂香歩及び二段目の桂は禁止」となります。

なお、ルールの表記は作者の提示した「安北2」をそのまま採用しています。「安北北」としても良さそうですが、それだと「1つ前と2つ前の枱にいる味方の駒の利きの合成になる」と

いう解釈をされそうなので、元の表記の方が良いと判断しました。

58-5は変寝夢氏による縦シリンダー盤を使った作品。今度は縦シリンダーの上で、ナイトライダーを走らせます。ただでさえ強力なナイトライダーが縦シリンダー盤では、どうなるか。利きの確認が大変かもしれませんが、その目でお確かめください。

58-6も変寝夢氏の作品。PWCとナイトの組み合わせです。PWCは基本的に盤上から駒が消えないルールですし、この使用駒だと駒が増えることもありません。盤上の駒をうまくやり繰りしてスタイルメイトの形を作ってください。

58-7と58-8は橘氏お得意のキルケ作品。58-7はいかにも大技が出そうな配置と持駒で、解く前から期待が膨らみますね。58-8は2つの解があるので、できるだけ両方の解を求めてください。たぶん一つの解は楽に見つかると思います。

58-9と58-10は上田吉一氏の中編PWC作品。上田氏らしい論理性と趣向性の融合した手順が味わえると思いますので、お見逃しなく。

58-11は本作品展では初登場となる幻想咲花氏の「透明駒」を使った作品です。「覆面駒」は駒の種類が分からないだけでしたが、「透明駒」は「覆面駒」より過激で、位置すらも分からない状態で手を進めることになります。幸い、このルールについての詳しい説明や例題が今月の詰パラの「透明人間の逆襲」という記事にまとめられていますので、まずはこれを読んでルールを把握してください。

解答要項

解答締切：2014年2月15日(土)

宛先：janacek789@ybb.ne.jp (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じjanacek789@ybb.ne.jpへ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。f m検討済みなら.fmo形式のファイル添付を推奨します。

WFP作品展：年末年始の予定

来年1月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、WFP作品展の今月号の新規出題と来年1月号の結果稿はお休みさせていただきます。

今後の予定は以下のようになっていますので、あらかじめご承知ください。

	12月	1月	2月
第58回&57-12	再掲	再掲	結果
第59回		出題	再掲
第60回			出題

ルール説明

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる

【マドラシ】

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。

【安南マドラシ】

安南とマドラシを両方適用する。利きの変化は「安南」が先、次に「マドラシ」の順。

(補足)

・安南も安南マドラシも行き所のない駒の概念はなし

【クイーン王】

玉がクイーン（飛と角を合わせた性能）の利きを持つ。

【打歩詰可】

打歩詰で詰ませても良い。

【安北2】

2枱前に味方の駒があるとその利きになる。

(補足)

・行き所のない駒の概念は通常通り

【打歩】

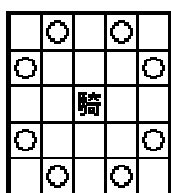
打歩詰以外の詰手を禁手とする。

【縦シリンダー盤】

一段目と九段目の同じ筋同士が繋がった盤。

【ナイト】(騎)

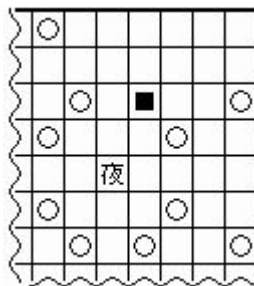
ナイトはチェスの駒。八方桂。



(○が騎の利き)

【ナイトライダー】

フェアリーチェスのナイトライダー（夜）。ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



(○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。)

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

・位置交換をすると「行き所のない駒」や「二歩」になる場合は普通に取られて相手の持駒になる

【キルケ】

駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

【協力千日手】

先後協力して最短手数で初形に戻す。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→詳細は詰将棋パラダイス2013年11月号の「透明人間の逆襲」を参照してください。



《第 57 回 WFP 作品展 57-12》
 解答締切：2014 年 2 月 15 日（土）

■ 57-12 一乗谷酔象氏作

推理将棋『明日があるさ』

「駒をぼろぼろ取られた後ぺたぺた打たれて
 70 手で負かされたよ」
 「何枚ぐらい駒を取られたの？」
 「連続王手で 17 枚も取られたよ」
 「そんなに駒を取られて未だ投げずに粘ったの
 かい？」
 「そうなんだ。でも、取る駒がなくなった後、
 今度は 17 回続けて駒を打つ連続王手をかけ
 られたんだ。初手の着手地点に飛車を打たれ
 る手もあった。最後詰まされたとき一つの筋
 には駒が 8 枚もあった」
 「残念な一局だったね。でも、駒柱詰を免れた
 のがせめてもの救いだ。明日があるさ」

さて、どんな将棋だったのでしょうか？

条件

- 1) 70 手で詰んだ。
- 2) 後手は 17 回連続して駒を取りながら王手
 をかけた後、17 回連続して駒を打って王手
 をかけた。
- 3) 終図では一つの筋に駒が 8 枚あった。
- 4) 初手の着手地点に飛車を打った。



《第 58 回 WFP 作品展》
 解答締切：2014 年 2 月 15 日（土）

■ 58-1 上谷直希氏作

安南マドラシ協力詰 5 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
						金	ス	四
							王	五
			飛					六
								七
								八
								九

持駒 飛 銀

■ 58-2 上谷直希氏作

安南マドラシ協力詰 7 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
				王				五
								六
								七
				角				八
								九

持駒 金

■ 58-3 上谷直希氏作

クイーン王協力詰 13 手 ※打歩詰可

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						王		一
							と	二
						と		三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 歩 3

■ 58-4 変寝夢氏作

安北2打歩協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
						飛			三
				銀					四
		ス	王						五
			龍		馬				六
									七
									八
									九

持駒 歩

■ 58-5 変寝夢氏作

縦シリンダー盤協力詰3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								夜	一
									二
									三
									四
王									五
									六
									七
									八
				夜					九

攻方持駒なし

受方持駒なし

(※夜=ナイトライダー)

■ 58-6 変寝夢氏作

PWC協力自玉スタイルメイト14手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
			王	龍					七
				騎					八
王									九

持駒 なし

(※騎=ナイト)

■ 58-7 橘圭伍氏作

キルケ協力自玉詰10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

王									一
龍		金						香	二
		金							三
		桂	桂						四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛 香

■ 58-8 橘圭伍氏作

キルケ協力自玉スタイルメイト16手 ※2解

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								龍	王	一
									歩	二
										三
										四
										五
										六
								王		七
								飛	ス	八
										九

攻方持駒 香4

受方持駒 なし

■ 58-9 上田吉一氏作

PWC協力千日手20手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王	一
									歩	二
									角	三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 香

■ 58-10 上田吉一氏作

PWC協力自玉スタイルメイト 36手

			王		銀				
			銀						
			香	香	香	香			
				駒	王				

攻方持駒なし
受方持駒なし

■ 58-11 幻想咲花氏作

詰将棋 11手 ※透明駒使用

			馬						
								銀	
								王	
				駒		桂	ス		
			駒		銀				

持駒なし
※透明駒 攻方1枚、受方0枚

以上



推理将棋第73回出題

担当：DD++

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第73回出題です。はじめての方は「どんな将棋だったの? - 推理将棋入門」をごらんください。

解答、感想はメールで2013年12月20日までにTETSUまで

(omochabako@nifty.com) メールのお題名は「推理将棋第73回解答」をお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント! 1題でも解けたらぜひご解答ください。

推理将棋第73回出題 担当 DD++

実質今年の最終回です、12月末出題を年内に手をつける方も少ないでしょうし。そんな今回は初中級とも9手、上級13手です。初中級は橘圭伍さんから「他の3種の駒が利いている地点」をテーマにした9手詰。4種利いたらダメなので条件を満たしているかの確認は怠りなくどうぞ。上級はチャンプさんから、少年の将棋シリーズからおもちゃ箱出題用に作られた作品。条件はわかりやすいですが、手ごたえはかなりのものですので腰を据えて取り組んでください。

また年末年始の出題ですが、私が1月中旬下旬に選題や執筆をしている余裕がないことが予想されるので、勝手ながら以下のようにさせていただきます。御了承ください。

第73回:11月下旬出題、12月20日締め切り、1月中旬に結果掲載

第74回:12月下旬出題、2月20日締め切り、2月末に結果掲載(年賀誌2ヶ月出題)

第75回:2月下旬出題、以後平常出題

■練習問題

「さっきの将棋、▲76歩△64歩▲33角成△52玉▲22馬△63玉まで見てたけどどうなった?」

「3筋の手はなく9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」
さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

■本出題

73-1 初級 橘圭伍さん作

秋珊瑚 9手

6手目まではあっという間に二択に絞れます。

73-2 中級 橘圭伍さん作

春黄金花 9手

ヒッカケにはまらなければ初級並。

73-3 上級 チャンプさん作

少年の将棋は? (おもちゃ箱限定 ver)

16手

角の手の棋譜に成も不成もつかないためには?。

73-1 初級 橘圭伍さん作

秋珊瑚 9手

「9手で詰んでいたけどどんな将棋だったの?」

「先手は自身を除く3種の駒の効きがある地点へ角生・角成・飛打の着手を指していたよ」

「後手は自身を除く3種類の駒の効きがある地点へ金を動かしたよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか?

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・先手は自身を除く3種の駒の効きがある地点へ角生・角成・飛を打つ手を指した
- ・後手は自身を除く3種類の駒の効きがある地点へ金を動かした

※参考:「自身を除く3種類の駒の効き」の例

- ・初手68玉とした場合、(玉を除いて)飛金銀が利いているので3種類でOK。そこから78玉は動かす前は飛の利きがないので金銀2種類でNG。
- ・先手馬、後手角、後手金、後手金の4枚が利いている地点に別の駒を着手する場合は馬角金の3種類でOK。
- ・先手馬、後手角、後手金、後手銀の4枚が利いている地点だと4種になってしまうのでNG。

73-2 中級 橘圭伍さん作

春黄金花 9手

「9手で詰んだのを見たんだけど何があったの？」

「先手は、3種類の駒の効きがある地点に銀を打ってたよ。」

「後手は自身を除く3種類の駒の効きがある地点に飛を動かした事が2回あったんだ」

「先手が取った駒は金銀歩の3種類だったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・先手は3種類の駒の効きがある地点に銀を打った
- ・後手は自身を除く3種類の駒の効きがある地点に飛を動かした事が2回あった
- ・先手が取った駒は金銀歩

※参考：「自身を除く3種類の駒の効き」の例

- ・初手68玉とした場合、(玉を除いて)飛金銀が利いているので3種類でOK。そこから78玉は動かす前は飛の利きがないので金銀2種類でNG。
- ・先手馬、後手角、後手金、後手金の4枚が利いている地点に別の駒を着手する場合は馬角金の3種でOK。
- ・先手馬、後手角、後手金、後手銀の4枚が利いている地点だと4種になってしまうのでNG。

73-3 上級 チャンプさん作 少年の将棋は？(おもちゃ箱限定 ver) 16手

少年A「君の将棋早く終わったみたいだけど、どんな将棋だったのか教えてよ。」

少年B「どんなと言われても、王手が3回あって13手で詰ませて勝ただけだよ。」

少年A「それだけでは何も分からないよ。」

少年B「仕方がないなー、じゃあ3回あった王手の内容を教えてあげるよ。」

少年A「そうこなくっちゃ！・・・って、これいつものパターン？」

少年B「○四角の王手があった」

「○五角の王手があった」

「○六角の王手があった」

少年A「一応聞くけど、どっちの王手かは教えてくれないんだよね？」

少年B「全て僕(先手)の王手だったけど？(笑)」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・13手で詰んだ
- ・王手は3回あり、その全てが先手の王手
- ・王手の内容は
 - ・「○四角」の王手
 - ・「○五角」の王手
 - ・「○六角」の王手

※全て棋譜表記のため、同・成・不成・打などは付きません

■練習問題解答

問題以下、▲66馬△74玉▲96角まで。

おさらい。推理将棋には無駄合という概念はありません。やけくそ合だろうがなんだろうが、合駒できればまだ詰んでいないわけです。しかし、遠くからの王手で詰まないのかということではなく、後手持ち駒がなければこのように詰ますこともできます。頑張れば攻め駒1枚で詰ますことすら可能ですね。9手詰だと合い効かずの形はかなり形は限られますが、もっと長くなると・・・さてどんな形がありえるでしょうか。手目までで唯一手順なので、実は意外と問題を作りやすい手順だったり。

なお、3筋の手ありだと左右対称に△54玉▲36角とでき、こちら場合は7手目が▲66歩だったり▲77桂だったりしても詰みますね。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	
二		飛								
三	歩	歩	歩		歩	歩		歩	歩	
四			王	歩						
五										
六	角		歩	馬						
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 歩

推理将棋第7 4 回出題

担当：DD++

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第7 3 回出題です。はじめての方は「どんな将棋だったの？」 - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2014年2月20日までにTETSUまで

(omochabako@nifty.com) メールのお題名は「推理将棋第7 4 回解答」をお願いします。解答者全員の中から抽選で2名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！1題でも解けたらぜひご解答ください。

推理将棋第7 4 回出題（年賀詰2ヶ月出題）

担当 DD++

あけましておめでとうございます（フライング）。告知していたとおり、今回は募集していた年賀詰の特集です。チャンプさん、渡辺秀行さん、はなさかしろうさん、斧間徳子さん、NAOさん、そして当コーナー初登場の諏訪冬葉さん、となんと6名もの方から投稿いただきました。しかも全員11手を作ったのに手順が見事にバラバラ。

とはいえテーマが共通なため、あれを解く過程があちらのヒントになったり、そっちを解くつもりがこっちの手がかりが見つかったり、ということがあちこちで発生します。これを2分割するのは特集として味消しだろう、ということで今回は中級6題一気にどかんと出題です。2ヶ月出題だといってもさすがに多すぎる気もしないでもないですが……。順番は難易度順ではなく単純に投稿順ですので、練習問題の後には興味を引かれたものから挑戦してください。くれぐれも類似条件の取り違えは起こしませんよう。

年末年始の本コーナー予定

第73回：(11月下旬出題、12月20日締め切り)、1月中旬に結果掲載

第74回：12月下旬出題、2月20日締め切り、2月末以降に結果掲載(年賀詰2ヶ月出題)

第75回：2月下旬出題、以後平常出題

■練習問題

「さっきの将棋、▲76歩△34歩▲22角成△62金▲33角△52玉まで見てたけどどうなった？」

「9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

■本出題

7 4-1 中級 チャンプさん作

今年の運勢は？ 11手

条件から詰み形をさっさと決めてしましましょう。

7 4-2 中級 渡辺秀行さん作

馬遊び 11手

盤面は大きく使って。

7 4-3 中級 はなさかしろうさん作

2611馬 11手

同じ筋に指さないように馬で攻める方法をあれこれ考えましょう。

7 4-4 中級 斧間徳子さん作

うま年の指し初め局 11手

2枚の角はそれぞれ何手目に何をしますか？

7 4-5 中級 NAOさん作

26には勝負手を放つ 11手

馬を捨てるためにはまず攻め駒確保から。

7 4-6 中級 諏訪冬葉さん作

26年の将棋 11手

さて最後の玉位置は何筋？

■お年玉ヒント (1月中旬コメント欄に掲載予定 DD++)

■締め切り前ヒント (2月13日コメント欄に掲載予定 DD++)

7 4-1 中級 チャンプさん作

今年の運勢は？ 11手

「元旦に指した将棋どうだったの？」

「11手で詰まして勝ったよ。」
「元旦に11で勝つとは洒落てるね。他に
は？」
「26馬という手があったかな。」
「26年午年に26馬とは縁起がいいね。他に
は？」
「初王手で駒柱が完成したよ。」
「えっ？新年早々駒柱って・・・。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・26馬という手があった
- ・初王手で駒柱が完成した

7 4-2 中級 渡辺秀行さん作 馬遊び 11手

「1月1日から11手で相手を詰めるのは縁
起がいいね」
「お互い馬で遊び合って合計5回も馬移動
があったよ」
「その中には1筋の着手もあったらしいね」
「そうだよ、歩以外の駒が取られることはな
かったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・馬を移動する着手は1筋の着手を含め5回
- ・歩以外の駒が取られることはなかった

7 4-3 中級 はなさかしろうさん作 2611馬 11手

「謹賀新年、あけましておめでとう。指し初
めしてきたよ」
「賀正賀正、おめでとうさん。今年も熱心だ
ね。で、どんな将棋だったの？」
「元日らしく、11手で詰んだよ。それから、
先手の着手は全て異なる筋だったな」
「なるほど、指し初めにふさわしい一局とい
うわけだね。それから？」
「金の手は2回全てが一段目だったよ。それ

から、大駒の手は6回全てが盤上の手だっ
た」

「ふむ。つまり、大駒を打つ手はなかったっ
てことだね。でも、それだけでは手順が
わからないし、今年にちなんだ一局という
気もしないけど」

「えっ？今年が平成26年だから、2と6
を織り込んでみたんだけどなあ。それな
らとっておき、馬の手で締め括ったんだけ
ど、これでどうかな？」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・先手の着手は全て異なる筋
- ・金の手は2回全てが一段目
- ・大駒の手は6回全てが盤上の手
- ・最終手は馬

7 4-4 中級 斧間徳子さん作 うま年の指し初め局 11手

「昨日の指し初めの一局、あっという間に君
が勝ったんだね」
「うん、11手目の初王手で相手玉を詰まし
たよ」
「投了した局面を見たけど、相手の駒台には
何もなく、君の駒台には角と歩が1枚ずつ
あったね」
「うん、完勝だったよ」
「どんな将棋だったの？」
「うま年だからって訳じゃないけど、馬の手
が5回もあったよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手目の初王手で後手玉が詰んだ
- ・馬の手が5回あった
- ・終局時の持駒は、先手が角と歩が1枚づつ
で、後手はなし

7 4-5 中級 NAOさん作 26には勝負手を放つ 11手

「今年の指し初めの一局はどうだった。馬の手が1回だけあったそうだけど」

「そうなんだ。玉が動いたから馬で王手をかけたんだけど、馬は玉に取られちゃった。でも、最後は11の手で11手で詰ませて勝ったよ」

「どんな手を使ったんだい？」

「好手を発見して、26地点に勝負手を放ったんだ。それが勝因だよ」

さて、どんな将棋だったのだろうか？そして26年、貴方の勝負手は？

(条件)

- ・11手目に11の手で詰んだ
- ・26の手あり
- ・馬の手は1回だけで、玉の手に対し王手をかける手だった
- ・馬は玉で取られた

7 4 - 6 中級 諏訪冬葉さん作

26年の将棋 11手

「今年の年明けにふさわしい将棋を指してきた」

「どんなの？」

「11手で勝ったんだけど後手玉が5段目まで上がってきたんだ。初日の出みたいだろ」

「それはちょっと無理がないか？」

「こっちは馬を作る手と桂馬の手を続けて指したんだ。午年らしいだろ」

「まあそれはわかる」

「あとは2014年で平成26年だから最初の2手は26と14の手だった」

「・・・最初の初日の出はいらなかったんじゃないか？」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・最初の2手は▲26歩△14歩
- ・先手は馬を作る手の次に桂馬の手を指した
- ・後手玉は5段目まで動いた

■練習問題解答

問題以下、▲23馬△44歩▲34馬まで。

推理将棋 74 練習問題詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀			金	銀	桂	香	
二		飛		王	王					
三	歩	歩	歩	歩	歩		角	歩		
四						歩	馬			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 歩2

意外と難しかったのではないのでしょうか。この詰み形は、離れた王手だけれども合駒できる駒がないから詰み、いわゆる合い効かずという形の1つ。これに馬の行動の手広さが加わると、本問のように予想外のところから詰みが生じる場合が多々あります。今回のような筋違い角を平行に2枚使うパターンその他、前回の練習問題のように斜めに十字を作る形も、そしてもちろん補助の駒に角以外を使うようなパターンも、さらには馬一枚だけで詰ませるような究極形も。

今回の出題もどうやらいくつこれらの応用の形のものがあるようです。なお、普通の詰将棋では合駒しても取られるだけで無意味なものを無駄合で無効としますが、推理将棋では結果的に無駄だろうがなんだろうが合駒で手数を伸ばせるなら有効な応手ですのでご注意ください。

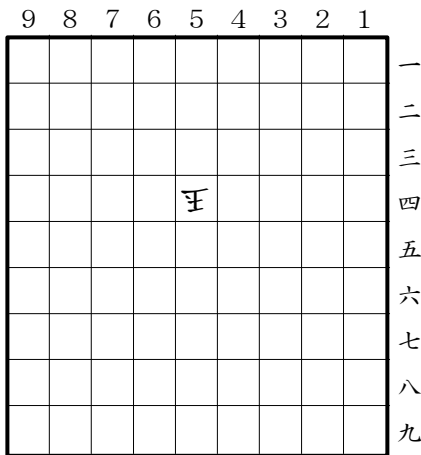
2014

年賀詰作品展

さてちょっと早いですが、毎年恒例の年賀詰作品展です。フェアリー詰将棋を正月に解いて頂き良い1年になることを祈念し開催します。

第1番 変寝夢作

ネコネコ鮮協力スタイルメイト 5手
後手持駒：銀2



持駒 G2

【ネコネコ鮮】

敵味方を問わず、駒が縦に繋がっているとき、上からn番目の駒は下からn番目の駒の性能になる。

(補足)

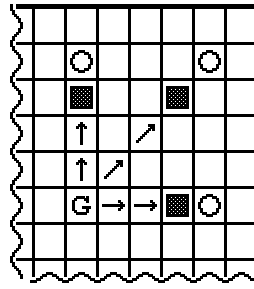
- ・並ぶ駒の枚数が奇数枚のとき中央の駒は本来の利きになる
- ・行き所のない駒の概念はなし

【グラスホッパー】(G)

フェアリーチェスの駒。クイーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。

(補足)

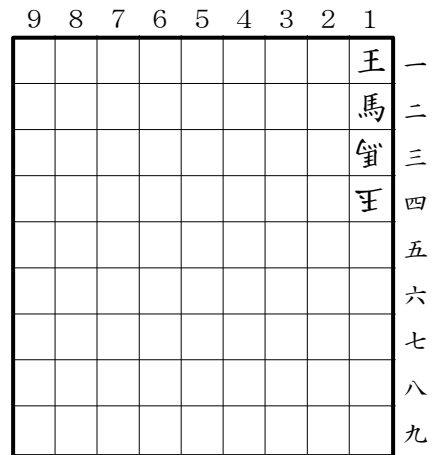
- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・パオと違って飛び越さないと動けない。動ける場所も飛び越えた駒の隣だけ。
- ・成ることはできない。特に記述しない限り受方の持駒にGはない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。



第2番 神無七郎作

a)

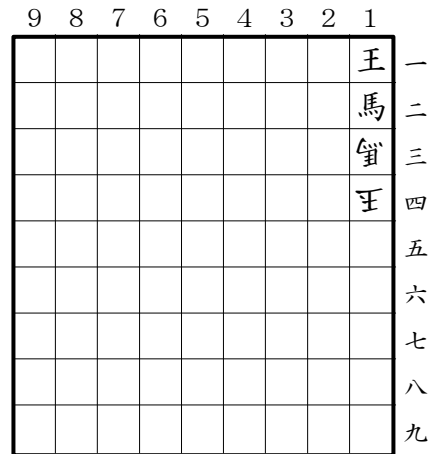
PWC 協力自玉スタイルメイト 12手



持駒 なし

b)

PWC 協力自玉スタイルメイト 18手



持駒 桂

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト(王手は掛かっていないが合法手のない状態)にする。

【作者コメント】

WFP の年賀詰作品展への投稿です。 a)と b)、2つの図を投稿しますが、a)は b)のヒントという位置づけで、本命は b)の方です。

第3番 たくぼん作

強欲協力詰 77手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
角				雫		銀				一
	ス			龍	と	歩				二
				王	と		桂			三
ス	と						銀	と		四
皇	と			桂			香	と		五
糸	糸	王				雫			と	六
歩	桂			歩					銀	七
	香	歩		桂	馬		雫	歩		八
雫		と	歩		雫	香		飛		九

持駒 なし

【強欲】

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【作者コメント】

難しいところは無いはず。すらすら解いてくださいませ。

第4番 ミニベロ作

2014年 馬年 年賀推理 14手詰

- ・最終 14 手目は、端へ「馬」の着手で「単騎詰」
- ・先手の着手は初手に 5 筋、次に 4 筋、次に 3 筋
- ・成る手は 2 回で不成り無し

解答要項

解答締切：平成 26 年 1 月 15 日（水）
 送り先：takuji@dokidoki.ne.jp（たくぼん）
 短評歓迎

伝統ルールを改変する 橘圭伍

0. 御挨拶

今年も最終月になりました。早いですが良い御年を。そして、明けましておめでとうございます。残りの10日程度及び来年も自作を宜しく願います。最初に伝統ルールでの年賀詰を置きます。

- ・ 伝統ルール 69手

				香		王		王
					笛		香	
				飛		皇		王
					科		桂	
				王		科		王
					桂		香	
				王		馬		王
					金		皇	

持駒
金歩
18

1. 序

現行の伝統ルール+フェアリー系統のルールと組み合わせた場合、多くの不都合が生じると考えられます。これは、伝統ルールが比較的曖昧にルール設定させているからです。今回は、WFPで紙面を頂いて改変案を提示させていただきます。なお、これは現在主流の伝統ルールを否定するものではありません。フェアリールールのかしこ詰系統との組み合わせを行う為のルール設定となります。本ルール設定にあたって上田吉一氏・神無七郎氏に協力して頂きました。感謝します。

2. 伝統ルール現代版 橘案

- ① 攻方最短・受方最長
- ② 無駄合概念なし
- ③ 手順は完全限定
- ④ 良識の範囲で、記載をする事によって変化同手数・成生の非限定を認める

用語

変化: 作意手順中、玉方の逃げ方の選択によって作意手順以下で詰むもの

紛れ: 作意以外の手順だが詰まないもの、または作意より長い手順で詰むもの

余詰: 作意手順ではない手順で、作意手数以下で詰むもの

3. 概要補足説明

①に関して

良く詰将棋のルールで書かれている物であるが既に形骸化しています。今回は、この攻方最短・受方最長が根本となるルールでこれに矛盾がないように設定をしています。

②に関して

受方最長なので当然ですが無駄合という概念はありません。よって、合駒がある限り透かし詰は本ルールでは不詰となります。

③④に関して

神無七郎氏に原案を見せた所、不要な部分は一切除外で良いのではと言われました。

が、今回の案では④によって、ある程度既存の作品も救えるようにしました。

④の成・生に関してですが、今回の案では成っても成らなくてもどちらでも良い場合は必ず成りを選択するしたいと思います。

上田氏と話した所、1970年位まではこのような局面は成る手を選択するのが暗黙の了解だったという話をされたので本ルールでは、これを尊重したいと思います。

また、良識の範囲という、何とも曖昧な表現を用いました。④はあくまでも救済措置であるのでないに越した事はありません。

4. 用語補足説明

紛れ及び余詰は説明不要と思います。

本ルールでは、作意より長く詰む手順は余詰ではありません。協力システムのルールと同様になっています。

①ですが、所謂変化同手数という物は許容しています。これは主題が終わったどうでも良い部分で限定する為に苦勞するのは時間の無駄という事です。悪用??は当然ですが禁止ですが其処は創作者の考え次第でしょう。

5. 作品は作れるのか?

見た目以上に厳しいルールですが、そもそも作品を作る事が出来るのでしょうか?そして、フェアリールールと伝統ルールを組み合わせる事で一体どのような事が出来るのでしょうか?自作2題とフェアリーと組み合わせである上田氏作を1題出題したいと思います。

[第1番] 橋 圭伍氏作 7手詰

				銀	王	
				藤	歩	歩
					笛	金

銀
桂

[第2番] 橋 圭伍氏作 15手詰
14手目から変同あり

変			マ				
種	と	傘					
	歩		歩	玉			
	王						
種	皇						
	桂	歩					
				馬	歩		
	桂	傘	香				
				遊			

角

[第3番] 上田氏作 57手詰 Circe

				笛			
							角
							玉
皇							
王			と				
	飛						

持駒 双方なし

[解答先]

keigotatibana@hotmail.com

[解答締切] 2月15日

王手をかけると1手詰

担当：一乗谷酔象

できるだけ王手の種類が多くなるように1手詰の盤面を推理する将棋パズルです。推理将棋の会話形式で出題します。

協力詰、推理将棋の慣例とおり、無駄合い有効。合駒があれば1手詰ではありません。また、打歩詰は禁止です。

一乗谷酔象

第1問『109通りの王手』

博士「王手の種類の多い1手詰を考えてみよう。何通りぐらいできる？」
 助手「50通りぐらいですか？」
 博士「いや、もっと多いよ。よく考えてごらん。」
 助手「あっ、そうか。80通りは楽に越えそうですね。頑張れば90通りも越えるかも」
 博士「100通りを越せないかな？ちょっと考えてみなさい」
 助手「はい。がんばります。博士」
 後日・・・
 助手「博士。できました」
 博士「そうか、100通りができたか」
 助手「いいえ。109通りです」
 博士「ほんとか。それはすごい。持駒には何枚使ったの」
 助手「持駒は3種類で6枚だけです」
 博士「ちょっとそれを将棋盤に並べてくれないか」
 助手「それでは・・・っと」
 助手が並べはじめ盤面に、と金を12枚おいたところ【図1】で・・・
 博士「ひょっとして成駒はと金だけかな」
 助手「はい、そのとおりです」
 博士「なるほど、わかったよ。手番が先手番でも後手番でも王手をかけると必ず1手詰になるね。よくやったな。王手種類が109通りの1手詰の完成だ。おめでとう」
 助手「ありがとうございます」
 さて、王手種類109通りの1手詰とはどのような駒配置でしょうか？
 二人の会話を元に推理してください。

【図1】

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
ス								と	一
ス								と	二
ス								と	三
ス								と	四
ス								と	五
ス								と	六
									七
									八
									九

先手持駒 (先後合わせて3種6枚)
 後手持駒

【出題条件の整理】

以下の全ての条件を満たすような、盤面(駒配置)と持駒(先後とも)を推理してください。

- (1) 手番が先手番の場合、王手をかけると必ず1手詰
- (2) 手番が後手番の場合、王手をかけると必ず1手詰
- (3) 王手の種類は、上記1)と2)を合わせて109通り
- (4) 持駒は、駒の種類が3種類で先後合わせて6枚
- (5) 11,12,13,14,15,16には先手のと金があり、91,92,93,94,95,96には後手のと金がある。
- (6) 成駒は、'と金'だけ

※持駒6枚と指定の'と金'12枚以外の残りの22枚は盤面に配置すること。

第2問『王手110越え』

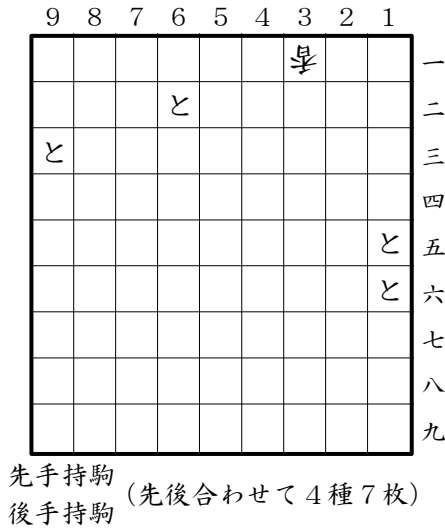
助手「博士。王手の種類が増えました」
 博士「そうか、110通りができたか」
 助手「いいえ。110を越えました」
 博士「ほんとか。それはすごい。ちょっとそれを将棋盤に並べてくれないか」
 助手「それでは・・・っと」
 助手が並べはじめ盤面に、5枚おいたところ【図2】で・・・
 博士「ひょっとして成駒はと金だけかな」
 助手「はい、そのとおりです。そして、持駒は4種類で7枚です」
 博士「ふむ、なるほど・・・わかったよ。手番が先手番でも後手番でも王手をかけると必ず1手詰

になるね。王手種類は112通りだね。よくやったな。おめでとう」

助手「ありがとうございます」

さて、王手種類112通りの1手詰とはどのような駒配置でしょうか？ 二人の会話を元に推理してください。

【図2】



【出題条件】

以下の全ての条件を満たすような、盤面(駒配置)と持駒(先後とも)を推理してください。

- (1) 手番が先手番の場合、王手をかけると必ず1手詰
- (2) 手番が後手番の場合、王手をかけると必ず1手詰
- (3) 王手の種類は、上記1)と2)を合わせて112通り
- (4) 持駒は、駒の種類が4種類で先後合わせて7枚
- (5) 盤上の駒のうち5枚のみ明示(先手の15と,16と,62と,93と,後手の31香)
- (6) 成駒は、'と金'だけ

※持駒7枚と盤上明示の5枚以外の残りの28枚は盤面に配置すること。

第3問『王手が200種』

博士「今度は駒数を制限しないで王手の種類の多い1手詰を考えてみよう。何通りできるか予想してごらん」

助手「150通りぐらいですか？」

博士「いや、もっと多いよ。ちょっと考えてみなさい」

助手「はい。がんばります。博士」

30分後・・・

助手「博士、できました。ちょうど200通りです」

博士「ほんとか。小駒は何枚使ったの？」

助手「盤上にはゼロです。先手持駒は飛角金銀桂香の六種で後手持駒はなしですね」

博士「じゃあ成駒は何枚使ったの？」

助手「成駒は、龍13枚と馬10枚の合わせて23枚です」

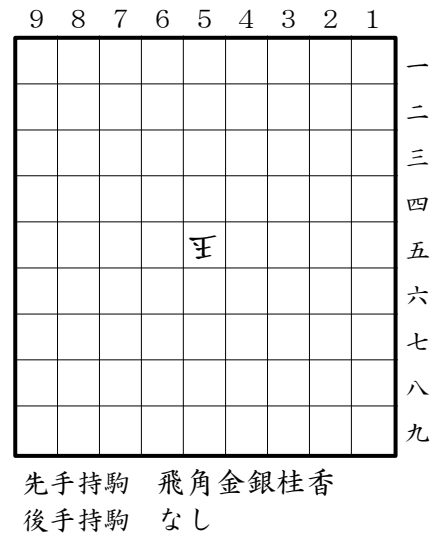
助手が並べはじめ盤面に、玉をおいたところ

【図3】で・・・

博士「なるほど、王手をかけると必ず1手詰になるね。王手の種類はちょうど200通りだね」

(第4問に続く)

【図3】



【出題条件の整理】

以下の全ての条件を満たすような、局面を推理してください。

- (1) 後手玉(単玉)に対し、先手が王手をかけると必ず1手詰になる
- (2) 王手の種類は200通り
- (3) 盤上の大駒の使用枚数は無制限。小駒なし
- (4) 成駒は龍13枚と馬10枚の計23枚
- (5) 先手持駒：飛角金銀桂香、後手持駒：なし

第4問『王手が200越え』

博士「王手種類が200通りとはよくやったけど成駒がちょっと多いね。小駒を増やして成駒を減らせないかな」

後日・・・

助手「博士、できました。小駒は盤上に金銀桂香歩各2枚使用で合計10枚。成駒は龍1種類だけで8枚です」

博士「ほんとか。それはすごい。ちょっとそれを将棋盤に並べてくれないか」

助手「それでは・・・っと」

助手が並べはじめ盤面に、歩を2枚おいたところ【図4】で・・・

博士「なるほど、わかったよ。王手をかけると必ず1手詰になるね。おっと、王手種類も増えたようだね」

助手「はい、206通りです」

博士「よくやったな。王手種類最大の1手詰の完成だ。おめでとう」

助手「ありがとうございます」

さて、王手種類206通りの1手詰とはどのような駒配置でしょうか？二人の会話を元に推理してください。

【図4】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
										五
										六
	歩								歩	七
										八
										九

先手持駒 飛角金銀桂香

後手持駒 なし

【出題条件の整理】

以下の全ての条件を満たすような、局面を推理してください。

- (1) 後手玉(単玉)に対し、先手が王手をかけると必ず1手詰になる
- (2) 王手の種類は206通り
- (3) 盤上の大駒の使用枚数は無制限

(4) 成駒は龍のみで8枚

(5) 盤上の金銀桂香歩は各2枚(17と97に後手歩あり)

(6) 先手持駒：飛角金銀桂香、後手持駒：なし

解答お待ちしております。一問のみの解答も歓迎します。また、条件外での超正解(通常40枚使用の王手種類113通り以上、駒数無制限での王手種類207通り以上)も歓迎します。

解答は下記まで

締切：平成26年1月15日(水)

ichi.suizo@gmail.com

一乗谷酔象

強 欲 な 世 界

担当：たくぼん

【強欲】駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

第1番 強欲協力詰 73手

持駒 なし

第2番 強欲協力詰 75手

持駒 なし

第3番 強欲協力詰 79手

持駒 なし

第4番 強欲協力詰 91手

持駒 なし

第5番 強欲協力詰 85手

持駒 なし

第6番 強欲協力詰 85手

持駒 なし

☆ 相変わらずの煙と準煙です。お楽しみ下さい。

宛先 takuji@dokidoki.ne.jp 1/15 締切

第57回WFP作品展結果 担当:神無七郎

第57回の作品展は全12題。解答者は7名でした。以下に今月の解答成績をまとめます。

〔第57回WFP作品展成績〕(敬称略)

○:正解 -:無解 ×:誤解

解答者名	1	2a	2b	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
たくぼん	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-	11
橘圭伍	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-	-	9
変寝夢	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	7
占魚亭	○	○	○	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	7
一乗谷酔象	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	○	6
ぽこ	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	5
DD++	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	5

今回は **57-5** でルール名を誤って出題するという大失態をやらかしてしまいました。作者の変寝夢氏及び悩まれた解答者の皆様に深くお詫びします。やむを得ず **57-5** は欠番とします。誤ったルールの方で解答された皆様は、上記成績に1点を加算した点を実質的な成績と考えてください。また、**57-11** は残念ながら余詰がありました。再出題は行わず、本稿で修正案を紹介します。また、**57-12** は作者以外の解答者がなく実質正解者ゼロでした。これは勿体ないので、本局については締切を延長し、第58回作品展と同じ締切で再度解答募集を行いたいと思います。**57-11** の解をヒントに再度の挑戦をお願いします。

■ 57-1 小林看空氏作 (正解7名)

協力詰3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
		銀		王	ス				五
								龍	六
									七
								角	八
									九

持駒 銀

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【解答】

44 銀 同と 66 龍 まで 3 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						ス			四
		銀		王					五
			龍						六
									七
								角	八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

WFP にばか詰3手詰、投稿します。

(2)a は石黒誠一氏が何と効率の悪い詰め上がりで驚嘆していました。

【解説】

いつも難問奇問面白押し WFP 作品展を見かねて(?)、看空さんが協力詰の3手詰を投稿してくださいました。特に最初のこの作品は、駒数が少なく、適度に紛れがあり、ウォーミングアップには最適の問題です。

本局のポイントは角筋を通す詰上りが見えるかどうか。そのための銀の捨駒は普通詰将棋にもありそうな手筋ですね。

本局は独立した一つの作品ですが、同時に投稿された作品と構図の関連性が仄かに感じられます。同時期に創作された作品は意識しなくとも何らかの共通性が生まれるのは自然な現象ですね。

【短評】

変寝夢さん

かしこでもやってみたい詰め上がり。

☆ 短手数だと協力詰と同じ手順を普通詰将棋でも実現できることがあります。手順は同じでもルールが違えば意味付けが変わるので、単なる模倣とは言えません。具体的な図がすぐには思い出せないのですが、例えば山田嘉則氏の作品などは、その手順を普通詰将棋に取り入れた例があったと思います。

■ 57-2 小林看空氏作（正解7名）

〔参考図〕 山田嘉則作

（詰将棋パラダイス 1983年3月）

ばか詰5手

									皇		一
								皇		歩	二
											三
									王		四
									歩	入	五
								角			六
									香		七
											八
											九

持駒 飛

（※すかし詰可）

44 飛 34 香 24 歩 36 香 23 歩成 まで 5 手

☆ 上記の作品の普通詰将棋版をご存知の方は、ご教示ください。

橘圭伍さん

これ位しか手順がないが。

ぼこさん

角道を通すための銀捨て。

分かれば簡単ですね。

占魚亭さん

一石二鳥の銀捨て。

たくぼんさん

45 金だと余詰のかな？

☆ 金でも飛でも馬でも、ほとんど何でも完全のようですね。多分、後続の作と親戚関係の作品なので「と金」になっているのだと思います。

DD++さん

一瞬引っ掛けを疑ってしまいますが、素直に解いていいんですよね？

a) 協力詰3手

											一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

b) 協力詰3手

											一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

【解答】

a) 59 馬 56 と 67 歩 まで 3 手

（詰上り）

											一
											二
											三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

b) 67 歩 同と 44 馬 まで 3 手

(詰上り)

										一
										二
										三
					馬					四
飛			ス							五
			王					龍		六
			ス							七
										八
		馬	香							九

持駒 なし

【解説】

「守備力の強化＝詰みにくい」にならない協力詰のパラドックスを表わした双子局。

2つの図の違いは 76 の駒が「歩」か「と」の違いだけ。これが普通のツインと違うのは、「と」の利きが「歩」の利きを完全に包含しているため、受方の守備力が $b) \geq a)$ となっていることです。これで両方が同手数・異手順の完全作として成立するのは不思議ですが、a)の最終手では「76 歩」なので 67 歩が取れず、b)の2手目では「76 と」なので 67 歩が取れる、というカラクリによって両者共に異なる手順で完全作として成立するのです。協力詰では受方の手が広がれば、そこで詰みやすい受けが選択できるので、守備力の強化を相殺することができるのです。

2つの図を比較すると両王手が掛かる形でそれを避ける a)と、最終手で実際に両王手をずる b)の対比が面白いですし、単独で見ると a)の効率の悪さ（攻方に大駒4枚+香1枚があって、直接とどめを刺すのは最弱の歩！）も印象的です。

これは想像ですが、作者の当初の狙いは、本局の a)だったかもしれません。この図では味方の龍の利きを遮っていた馬が、移動後は味方の歩に利きを遮られるという構成になっています。「構成」を先に決めておいて、それに合う図を作る創作法はチェスプロブレムではポピュラーなものであり、看空さんならそういう作り方をしても不思議ではないと思います。

【短評】

変寝夢さん

- a) 5 三馬に結構はまった。歩突きの味が良い
- b) これは数秒。派手な展開は見えやすかった 7 6 歩を強く（とにする）してどうやって詰ますのか、というところが面白かったです。意味づけとしては今回は比較的簡単なものですが、いろんな可能性がありそうですね。

橘圭伍さん

- a,b で役割が入れ換わると思ったがそうでもなかった。

ぼこさん

- a) なぜか手こずった作品。
- b) 3 手詰めの中で一番早く解けました。こういう直線的な手の方が思いつきやすいみたいです。

占魚亭さん

- a) 馬の移動場所に少し悩みました。
- b) 今度は突き歩から。

たくぼんさん

先に開くか後から開くかですね。

DD++さん

- a) 先に b を解いてから、「ツインなら 67 歩が最終手か」とやりました。
- b) 玉方駒が生歩では詰まないがと金なら詰む、となればやはり斜めに動かしたくなります。

☆ 短評を見る限り、やはり a)の方が難しかったようですね。



■ 57-3 小林看空氏作（正解7名）

協力詰3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
			ス						五
			王			馬	龍		六
									七
									八
	角	歩							九

持駒なし

【解答】

53馬 77玉 86龍 まで3手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
				馬					三
									四
				ス					五
	龍								六
		王							七
									八
	角	歩							九

持駒なし

【解説】

前問と同じく両王手が可能な構図。この種の作品では、なるべく開き王手の移動先が「役に立たなそう」であるのが良いのですが、初手「53馬」はその基準に照らしてまずまず良い手だと言えます。配置が盤の下半分に集中しているので、そこから飛び出す着手は盲点になりやすいと思います。

また、本局は駒配置の効率もなかなかです。詰上りは攻駒4枚のうちどれが欠けても詰みません。受方の「と金」のみが詰みに参加していませんが、これは5筋に玉が動いて、56龍まで詰める筋を消しています。

本局は紛れが多いですが、順番に読んでいけば確実に詰むので、締切の長い解答募集よりは、タイムトライアルのような「直感勝負」の解答形式に向いている作品だと思います。実はこう

いう作品では「1手パス」をして受方の手番で「詰みやすい手は何か」を考え、それに攻方の手を合わせる、という技もあるのですが、そんな凝った手段を使う必要もないでしょう。

【短評】

変寝夢さん

1七馬とかもできそう。

橘圭伍さん

馬の開き王手しかないので風潰しにした。

ぽこさん

馬がそっぽに行く上、盤面がかなり広がるのでなかなか思いつきませんでした。

占魚亭さん

77玉の局面を考えれば簡単。

たくぼんさん

角と歩の配置がうまい。

DD++さん

この初手はなかなか見えませんでした。

☆ここまでは全解答者が正解。看空さんのおかげで、解答が増えて良かったです。

■ 57-4 変寝夢氏作（正解5名）

ネコネコ鮮協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
						王	金		七
								飛	八
									九

攻方持駒なし

受方持駒角2桂

【ルール】

•ネコネコ鮮

敵味方を問わず、駒が縦に繋がっているとき、上からn番目の駒は下からn番目の駒の性能になる。

【解答】

49 飛 47 桂 38 金 39 角 37 飛 まで 5 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
						科	飛		六
						王	金		七
							馬		八
									九

攻方持駒なし
受方持駒角

【作者のコメント】

ソフトにネコネコ鮮追加しましたので記念作。先手の指し手に妙味は全くないが、詰め上がり角で金を取れないのが面白いかな。

【解説】

性能変化ルールで一度は作ってみたいのが、利きの変化による両王手。本局は作者が自作ソフトに「ネコネコ鮮」を追加した記念に作ったものということで、性能変化両王手が主題になったのも、自然の成り行きでしょう。

詰上り図を見てください。角の性能から元の性能に戻った金と、桂の性能から角の利きに変化した飛で両王手が掛かっています。両王手を掛けられた玉は桂の性能なので、両王手でなくとも簡単に詰むのですが、細かいことはいいでしょう。39 角は飛の性能なので 38 金を取れそうに思えますが、取っても 37 飛の利きは角のまま。作者も言うように、性能変化の種駒が動いても、変身解除ができないのが面白いですね。

本局は受方持駒が制限されていますが、これは創作時の名残でしょうか。受方の持駒が「残り全部」でも完全作のようです。

【短評】

橘圭伍さん

この手順なら余り背面と変わらないのでネコネコ群らしさはない気がします。

ぼこさん

39 角と下から打つ発想がなかったので一番悩みました。あと、慣れてないせいもありますがこれで詰んでいるのかどうか一目わかりにくかったです。

占魚亭さん

上に打つ事しか頭になかったので、39 角の発見にかなり時間がかかりました。

たくぼんさん

駒が増えて行くので利きを確認するのが大変です。

☆ 短評を見るとポイントは 39 角だった模様。性能変化ルールでポピュラーな「安南」や「対面」では確かにこの手は出てきませんね。

■ 57-5 変寝夢氏作 (誤出題のため欠番扱い)

本局は出題時にルールを「ネコネコ鮮協力詰」としていましたが、正しくは「ネコネコ鮮協力ステイルメイト」でした。作者並びに解答者の皆様に深くお詫び致します。

本局の 57-5 は欠番とします。作者からはこれを年賀詰に投稿するとの連絡を戴きましたので、そちらの方で改めて解答をお寄せくださるようお願いします。

誤ったルールでの解答も 2 通寄せられていますので、以下では簡単に説明します。

ネコネコ鮮協力詰 5 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
						王			四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 G2

受方持駒銀2

(※ G = グラスホッパー)

【ルール】

・ グラスホッパー (G)

フェアリーチェスの駒。クイーンの線上で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に

着地する。そこに敵の駒があれば取れる。

【解説】

ルールを誤って出題してしまいましたが、その誤ったルールで2名から解答を戴きました。手順は以下の通り。

55G 56銀 57G打 58銀打 53G まで5手

ただしこれは唯一解ではなく、作者に問い合わせたところ初手 53G以下の余詰筋が5解あるとの回答をいただきました。以下に一例を示します。

53G 55銀 56G 52銀 55G まで5手駒余り

興味深いのは初手 55Gからの手順は「協力」でなくとも（おそらく）詰むということです。Gは盤上の駒が少ないと利きも少ないので、意外と詰みやすいのです。

【短評】

橘圭伍さん

どの方向に伸ばしていくかが問題。

ぼこさん

前問と比べて手が限られているので割と直感的に解けました。

■ 57-6 変寝夢氏作（正解5名）

協力詰5手

									王	一
										二
										三
								香		四
								銀		五
								桂		六
										七
										八
										九

攻方持駒n桂

受方持駒なし

(※16香と持駒の桂は中立駒)

【ルール】

• 中立駒（「」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。横向きの字か横にnを付加して表記。

→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記

事を参照してください。

【解答】

23n桂 15n桂 23n桂成 13n圭 22香成 まで5手

(詰上り)

										王	一
										杏	二
										州	三
											四
											五
										桂	六
											七
											八
											九

攻方持駒なし

受方持駒銀

【作者のコメント】

中立駒の打ってすぐ喰うパターンです。

16中立は余詰消し。

また最終手が面白くないところが不満ですが、まだ慣れてないので。

【解説】

一目 16n香が気になる形です。もしこれが攻方 16香なら、15銀を動かして開き王手をすれば詰みます。しかし、これが中立駒であるため、初手に 26銀などと開き王手をしても「17n香成」などの受けが生じてしまいます。何とか 15銀を消して 16n香を活躍させたいところですが、中立駒といえども自分の手番で自分の駒は取れません。初手「15n香」とはできないのです。

そこで出番となるのが持駒の n桂。攻方で 15銀を消せないなら、受方に消して貰えば良いのです。そう、「23n桂」の王手の後、これを 15に跳ねれば 15銀を消せるのです。

15銀消去の後、元の位置に戻る「23n桂」の活用ですが、ここで両王手を掛けてしまうと良くない（玉が逃げるか、n桂を 15に戻さねばならなくなる）ので、「成」とします。そのため、今度は「13n圭」の受けを生じてしまいますが、今度は普通の王手「22香成」で詰みます。

最終手で「22n圭」の両王手では「13n圭」の受けが生じてダメ、中立駒は常に元の位置に戻す手を考慮しないといけないのです。シンプルながら、桂が趣向的に活躍する手順が織り込

まれ、中立駒の手筋を学べる作品ですね。

【短評】

橘圭伍さん

中立駒の基本筋。

ぽこさん

n 桂の反復がユニークですね。
そこまで分かっているながら最終手が分からずしばらく放置。
やっぱり慣れが必要です（汗）

占魚亭さん

中立桂の捌きがいいですね。
最終手は2二n成桂とする所でした。

たくぼんさん

一人で何やってんのって感じですね（笑）

DD++さん

何度か「詰んでいると思ったら詰んでなかった」をやったのでこれもミスしていないか不安。

☆ 慣れさえすれば中立駒は詰棋人にとって難しいルールではなさそうですね。逆に慣れないうちはミスが多発しそうですが。

■ 57-7 上谷直希氏作（正解2名）

安南マドラシ打歩協力詰 13手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
								王	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀 桂

【ルール】

• 安南

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

• マドラシ

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。

• 安南マドラシ

安南とマドラシを両方適用する。利きの変化は「安南」が先、次に「マドラシ」の順。

• 打歩

打歩詰以外の詰手を禁手とする。

【解答】

43 銀 22 玉 34 桂 42 桂 同銀成 23 桂
32 全 12 玉 24 桂 22 歩 同桂生 11 玉
12 歩 まで 13 手

(詰上り)

									王	一	
								全	桂	歩	二
								桂			三
								桂			四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

【作者のコメント】

ルールがややこしいことこの上ないですね。
この持駒から打歩詰にできることに驚きがあれば思い創作。

13手とはいえ、歩を入手しなければならないということを考えればあまり余裕はありません。
作意順を見ればそれぞれの手の目的はだいたい理解できるのですが、歩が出現するまで手間取るのでやきもきさせられます。

【解説】

打歩なのに歩が持駒にない。盤上にも歩がない。合駒で歩を出そうにも飛び道具もない——いくらフェアリーといえども、打歩詰に誘導するのは絶望的な状況です。実際、これが「安南」あるいは「マドラシ」の単独ルールであれば、どうあがいても詰みません。これが単独ルールではなく複合ルールであることを最大限に活かしましょう。

まず「受方が歩を打つ」という状況を考えます。これは合駒ではありません。「安南」の効果を狙って何か味方の駒の下に歩を打ったわけで

す。その味方の駒は歩の性能で王手を防いだわけですから、「マドラシ」で駒を消すには直前に同じ種類の駒がなくてはいけません。つまり銀か桂が互いに向かい合っている形ですね。このうち、銀が向かい合っている形は「マドラシ」により既に利きを打ち消し合っている可能性が高い（攻方の銀が「安南」により性能変化している可能性もあるので、可能性は100%ではありません）ので、向かい合っているのは桂の可能性が高くなります。

ここまで組み立てができれば向かい合った桂の下に歩を置いた形をどう作るか、という話になります。注意しないといけないのは、打った歩を取る形です。「安南」では2段目に生の桂馬があっても良いことを忘れてはいけません。それに気づかないと、銀で取る手を考えて手数オーバーになりかねません。

[銀で歩を取る手順の例]

23 銀 42 玉 34 桂 22 桂 同銀生 43 桂
31 銀生 32 玉 44 桂 42 歩 同銀生 21 玉
33 銀成 31 玉 32 歩 まで 15 手

あるいは平凡に大駒で歩合を出そうという誘惑に駆られる危険もあります。

[大駒で歩を取る手順の例]

23 銀 33 銀 44 桂 21 玉 12 銀生 22 玉
23 銀生 32 飛 同桂成 11 玉 15 飛 14 歩
同飛 13 歩 12 歩 まで 15 手

上記の紛れは、いずれも「13手」という手数制限に阻まれており、実にきわどいですね。本局の手順は構想のキモを見抜けば一発で解けるものではなく、こうした紛れを潜り抜ける努力とセンスが要求されます。

本局は歩の入手法の謎解きが面白く、歩を入手するのが歩を打つ直前という構成も高く評価できます。作者は複合マドラシをかなり思い通りに操れるようになったみたいですね。

【短評】

橋圭伍さん（※無解）

桂対の形にして後手桂の下に歩を打てば歩の入手は簡単に可能、まで考えたのですが変身物を解く気力がなくて FM 先生に作意解をたずねました。最終的に 22 桂生も入り作品としての完成度は高いのかな。

占魚亭さん

歩の捻出方法が謎でしたが、6 手目の発見がヒントになりました。

たくぼんさん

合駒なしで歩を発生させるこの謎解きは面白かった。

☆ ルール名を聞いただけで投げ出したくなるような作品なので、このお二人の正解はお見事です。

■ 57-8 橋圭伍氏作（正解3名）

PWC協力自玉スタイルメイト 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
			王						五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

【ルール】

- PWC
取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。（駒位置の交換となる）
- 協力自玉スタイルメイト
先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

【解答】

79 飛 78 香 同飛 86 玉 89 香 88 飛

同飛/78 飛 87 桂 まで 8 手

(最終形)

										一
										二
										三
										四
										五
		王								六
		飛								七
	王	飛	桂							八
		香								九

持駒 なし

【作者のコメント】

PWC のルールを決定する際に創作した作品にして現在の細則で創作された 1 号局。PWC のルール説明用としては比較的多くの内容が含まれていると思います。

今回、PWC 作品を投稿させて頂くので例題として使用して貰っても良いです。そういう事情により、私には思い出深い作品です。

【解説】

橘氏が“日本式”の PWC を提案したのが 2005 年 9 月 5 日。それ以前にも既に上田吉一氏が PWC を詰将棋に持ち込んで作品を作っていました。このときは「行き所のない駒」と「二歩」の扱いは未定で、それが問題にならないような範囲で創作されていたそうです。

この時決まった“日本式”PWC の細則は以下の通りです。

位置交換をすると「行き所のない駒」や「二歩」になる場合は、普通に取られて相手の持駒になる

本来は駒が増減しない PWC ですが、このルール設定により、桂香歩に限っては駒が盤上から消える可能性が出てきました。そして、本局で焦点になるのは「行き所のない駒」。本局はその性質を巧みに利用しています。

本局の前半の見所は香を稼ぐ手順です。自玉スタイルメイトは一般的には駒を減らしたいルールですが、ここでは逆に駒を増やします。実は、香はスタイルメイトではかなり役に立つ駒です。香は後ろに進めないの、壁の代わりに

使えるからです。種類が限られるとはいえ、駒を入手することができるのは“日本式”PWC の魅力の一つですね。

この香は壁だけでなく合駒請求にも役立ちます。飛合を発生させて、自分の飛をピンする目的に使うのです。そして本局の白眉は最終手 87 桂。これはもちろん 99 に利かしているのですが、これを取るとどうなるでしょう？

そう、ここでも“日本式”PWC の効果が表れます。87 桂を取っても、その桂は 88 に復活しません。盤上から消えてしまいます。すると 78 飛の利きが自玉に当たる反則になります。結局 87 桂は取れず、これでスタイルメイトの達成です。

本局は日本式 PWC のルールが整備されて間もない頃の作品ですが、この時期にこのような洗練された作品ができていたのは驚きです。

【短評】

変寝夢さん

初手は飛打だが、先手の持ち駒がなくては話にならない。よって 2 手目は桂香歩と決め打って解決。

ただ解答を書く段になって一段上だと桂がキルケして詰まなかったことに気がついた。これもいい古典になることでしょう。

橘圭伍さん

PWC 作例として作った時は 77 玉だったが 75 の方が紛れがないので作例としてはこちらが良いという判断。現行の PWC で桂香入手の説明図としては最適だと思っています。

8 段目に生じた桂は消滅するという事を利用した 99 封じの手順が最大の山でしょうか？

たくぼんさん

双裸玉でこの手順なら言うことなし。

一乗谷酔象さん(※無解:8~10 へのコメント)

PWC は解いておきたかったが、時間切れです。9 がもう一息。桂の軌跡が複雑で手数超過。

☆ 作者自身や変寝夢さんのコメントにもあるように、本局は日本式 PWC の特徴が良く出た作品で、「古典」になる可能性は十分にありそうです。

■ 57-9 橘圭伍氏作 (実質正解者 1 名)

PWC協力自玉詰 142手

									科	一
									科	二
									科	三
										四
										五
香	馬									六
王	王									七
				銀						八
			歩							九

攻方持駒なし
受方持駒なし

【ルール】

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【解答】

75 馬 98 玉 65 馬 97 玉 64 馬 98 玉
 54 馬 97 玉 53 馬 98 玉 43 馬 97 玉
 42 馬 98 玉 32 馬 97 玉 31 馬 98 玉
 21 馬 89 玉 12 馬 23 桂 同馬/12 桂 79 玉
 13 馬/23 桂 24 桂 同馬/13 桂 89 玉 34 馬 98 玉
 43 馬 97 玉 42 馬 98 玉 32 馬 89 玉
 23 馬/32 桂 79 玉 13 馬/23 桂 69 玉 14 馬 79 玉
 24 馬 35 桂 同馬/24 桂 89 玉 34 馬 98 玉
 43 馬 97 玉 42 馬 98 玉 32 馬/42 桂 89 玉
 23 馬 34 桂左 同馬/23 桂 98 玉 43 馬 54 桂
 同馬/43 桂 97 玉 53 馬 98 玉 43 馬/53 桂 89 玉
 34 馬 79 玉 24 馬/34 桂 35 桂 同馬/24 桂 46 桂
 同馬/35 桂 89 玉 45 馬 79 玉 35 馬/45 桂 69 玉
 36 馬 79 玉 46 馬 89 玉 56 馬 98 玉
 65 馬 97 玉 64 馬 98 玉 54 馬 65 桂
 同馬/54 桂 97 玉 64 馬 98 玉 54 馬/64 桂 89 玉
 45 馬/54 桂 79 玉 35 馬 89 玉 34 馬 79 玉
 24 馬/34 桂 69 玉 25 馬 79 玉 35 馬 46 桂左
 同馬/35 桂 89 玉 45 馬 79 玉 35 馬/45 桂 69 玉
 36 馬 79 玉 46 馬 57 桂生 同馬/46 桂 89 玉
 56 馬 79 玉 46 馬/56 桂 69 玉 47 馬 79 玉
 57 馬 68 桂成 同馬/57 圭 89 玉 67 馬 98 玉
 76 馬 同桂/64 馬 97 馬 89 玉 88 馬 同桂成/76 馬
 67 馬 98 玉 76 馬 87 圭 まで 142 手

(詰上り)

										一
										二
										三
										四
										五
										六
香	馬									七
	王									八
										九

攻方持駒なし
受方持駒なし

【作者のコメント】

上田氏作を見て構図を流用したら3桂を呼べる構図だと気付いた事から作った??作品です。

桂を1枚呼ぶのは綺麗な馬鋸で出来る事はPWCの細則を作った時にOFM掲示板で私が作った作品の神無七郎氏の余詰筋から判明していましたが今回の構図では馬筋を2筋から5筋に伸ばす事によって同時に3枚呼んでくる事を可能にしています。馬鋸による呼び出しではないので従来の目標とは若干異なりますが同時に馬で呼んで来ているので完成として良いでしょう。

また、掲示板での神無七郎氏の余詰指摘から作った作品を参考図として上げておきます。こちらは純粋な馬鋸による桂の呼びだしとなります。

[参考図] 橘圭伍氏作

PWC協力自玉詰 134手

										科	一
											二
											三
											四
											五
											六
銀											七
金											八
											九

攻方持駒なし
受方持駒なし

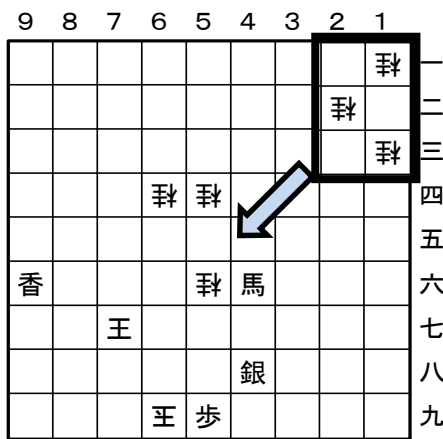
(※詰手順は解説文にて)

【解説】

今回の作品展の最難問。実質解答者ゼロとなった 57-12 より難しいと筆者は思います。

本局の構図は WFP63 号に掲載された上田吉一作品展の 2 番からの流用とのことですが、素材自体はかなり昔のものです。作者自身のコメントで修正図が提示されていますが、原図は 2005 年 9 月 26 日に Onsite Fairy Mate の掲示板で発表されました。このときは余詰があり、私などは余詰報告のついでに「凝るのなら、桂を成桂にして往復させるとか、複数の桂を送り込むとか…」などと好き勝手なリクエストを出していました。その後半が本当に形になったのがこの作品です。ただ、このとき私がイメージしていたのは、WFP63 号の上田吉一氏の作品のような「多段馬鋸」だったのですが、本局は馬鋸の規則性を大幅に逸脱する「不規則馬鋸」とでも呼ぶべき前代未聞の手順が繰り広げられます。筆者自身も完全に本局を理解しているわけではないのですが、読者の皆さんの理解の手助けとなるよう、基本的な考え方の整理だけでも行ってみます。

まず、自玉を詰めるために、どんな局面を目標にすべきかを考えます。盤上右隅にかたまった桂三枚を自玉に寄せてくるわけですが、詰上り 76 馬・87 圭を中心に周りの配置を考え、ある程度逆算すると、作意 124 手目の局面が浮かんでくると思います。



攻方持駒 なし
受方持駒 なし

図 9-1 桂をどこに運ぶか

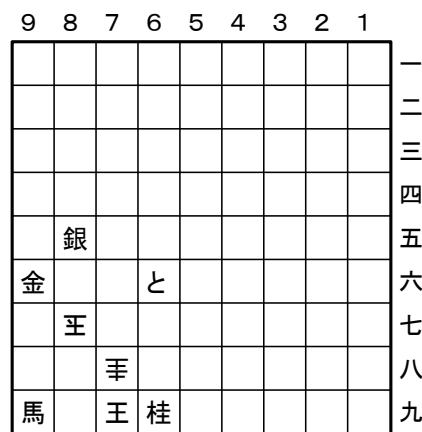
この局面が見えれば、手数はともかく詰むことだけは保証されます。が、問題はどやって桂をここまで運ぶ最適ルートを求めるかです。

ここで、桂の運び方の基本を学習しましょう。

これには良い方法があります。「参考図」として橘氏のコメントで挙げられていた作品を解いてみるのです。

〔57-9 参考図〕 橘圭伍氏作の解答

76 馬 99 玉 66 馬 98 玉 65 馬 99 玉
 55 馬 98 玉 54 馬 99 玉 44 馬 98 玉
 43 馬 99 玉 33 馬 98 玉 32 馬 99 玉
 22 馬 98 玉 21 馬 99 玉 11 馬/21 桂 98 玉
 99 馬 87 玉 77 馬 98 玉 76 馬 99 玉
 66 馬 98 玉 65 馬 99 玉 55 馬 98 玉
 54 馬 99 玉 44 馬 98 玉 43 馬 99 玉
 33 馬 98 玉 32 馬 99 玉 22 馬 33 桂
 同馬/22 桂 98 玉 32 馬 99 玉 22 馬/32 桂 98 玉
 99 馬 87 玉 77 馬 98 玉 76 馬 99 玉
 66 馬 98 玉 65 馬 99 玉 55 馬 98 玉
 54 馬 99 玉 44 馬 98 玉 43 馬 99 玉
 33 馬 44 桂 同馬/33 桂 98 玉 43 馬 99 玉
 33 馬/43 桂 98 玉 99 馬 87 玉 77 馬 98 玉
 76 馬 99 玉 66 馬 98 玉 65 馬 99 玉
 55 馬 98 玉 54 馬 99 玉 44 馬 55 桂
 同馬/44 桂 98 玉 54 馬 99 玉 44 馬/54 桂 98 玉
 99 馬 87 玉 77 馬 98 玉 76 馬 99 玉
 66 馬 98 玉 65 馬 99 玉 55 馬 66 桂
 同馬/55 桂 98 玉 65 馬 99 玉 55 馬/65 桂 98 玉
 99 馬 87 玉 77 馬 98 玉 76 馬 99 玉
 66 馬 77 桂生 同馬/66 桂 98 玉 99 馬 87 玉
 78 と 同桂成/66 と まで 134 手
 (詰上り)



攻方持駒 なし
受方持駒 なし

この作品では規則的な馬鋸によって桂を呼び出しています。ただし、PWCでは普通に馬鋸を往復させても桂を呼び出すことはできません。往路と復路の軌道が同じだと、せっかくだと

動した桂が戻ってしまうからです。従って、この図では片道馬鋸で桂を動かした後、直接馬を呼び戻し、再度片道馬鋸で桂を呼び出しています。結果、片道馬鋸を何度も行う作品に仕上がりました。

この作品では桂を運ぶ2つの基本パターンが現れます。まず一つ目は桂を横に運ぶパターンです。



図 9-2 桂を横に運ぶ形

ここから馬で桂を取れば桂が横の一つ移動します。これは分かりやすいですね。

もう一つは桂を縦に運ぶパターンです。



図 9-3 桂を縦に運ぶ形

ここで桂を取って桂を縦に移動するのではありません。ここでは一旦桂を跳ね、それを同馬と取ることによって桂が縦に移動します。こうすると、次に馬が前に進んで「桂を横に運ぶ形」に持ち込むことができるからです。

つまり、参考図で桂を呼び出すパターンは、

「桂を横に運ぶ」→馬を戻す→馬鋸→

「桂を縦に運ぶ」→馬が前に進む→

「桂を横に運ぶ」→…（以下繰り返す）

となります。規則的な趣向の中に、馬鋸と桂跳ねを織り交ぜながら、受方の桂を「桂鋸」で呼び出すというなかなか面白い手順ですね。

ちょっと話が逸れますが、受方の持駒が「なし」ではなく、合駒があると、上記の「馬を戻す」を合駒で代用して短縮することができます。それが参考図や本局に受方持駒制限がある理由です。合駒を可能にして綺麗な軌跡を盤上に残す、という作り方もありますが、それはまた別の作品になるでしょう。

次に参考図の発展形を考えてみましょう。すぐに思いつくのは参考図に上田吉一氏の作品の構図を応用して、もう1枚の桂も動かすようにすることです。

[参考図の応用例]

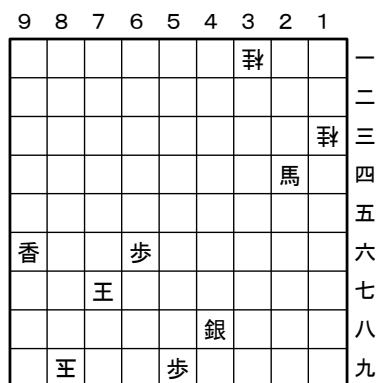
PWC協力白玉詰 108手



攻方持駒 なし

受方持駒 なし

易しいので解は略しますが、これは基本的には 57-9 で桂によって埋めていた 66 地点を、攻方の駒で埋めただけです。この図では規則的な馬鋸で2枚桂を呼び出す手順が出てきます。この図の 26 手目から 46 手目を見てみましょう。

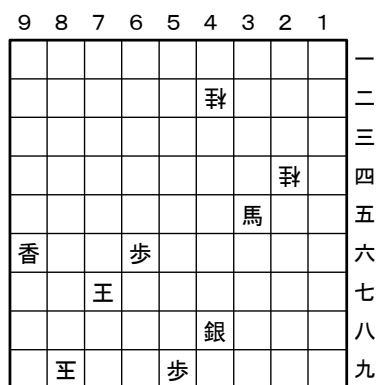


攻方持駒 なし

受方持駒 なし

第26手目 89玉

23 馬 98 玉 32 馬 43 桂 同馬/32 桂 97 玉
42 馬 98 玉 32 馬/42 桂 89 玉 23 馬 79 玉
13 馬/23 桂 69 玉 14 馬 79 玉 24 馬 35 桂
同馬/24 桂 89 玉



攻方持駒 なし

受方持駒 なし

第46手目 89玉

このように 20 手で 2 枚の桂を斜めに一つ寄せる順が現れます。ここで右下側の馬鋸が通常の 2 段馬鋸ではなく 3 段馬鋸になっていることに注目してください。この構図では〔参考図〕と異なり、馬が 9 段目や 9 筋に帰って来ることができません。その代わりに馬が横に逸れる待避路を用意することで、桂に触らず、馬が玉の近くに寄ることができるのです。

さて、ここまで準備をしていよいよ本局です。「桂を横に運ぶ」「桂を縦に運ぶ」「桂に触らず馬が戻る」の 3 つに、次の新たなパターンが加わります。

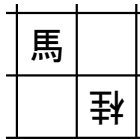
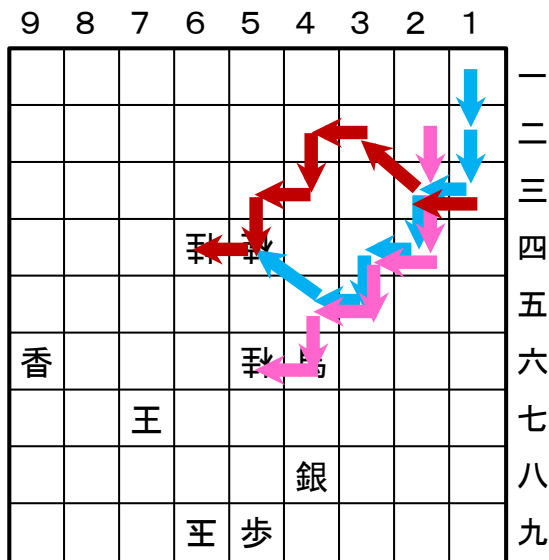


図 9-4 桂を斜めに運ぶ形

これは馬で桂を取って斜めに移動するのですが、段が下がるため、できればやりたくない動きです。でも、これは盤の右斜め側から左斜め側に桂を運ぶのに必要です。ここでは説明のため、作意での桂の軌跡をご覧ください。



攻方持駒 なし

受方持駒 なし

図 9-5 桂の軌跡

この図では 11 桂の軌跡を水色、13 桂の軌跡を赤色、22 桂の軌跡をピンク色で示しています（桂が縦に動くとき、一瞬桂馬跳びをする動き

は省略）。23 地点で渋滞が起こりそうですが、作意では 11 桂・13 桂を先行させ、22 桂を時間差で動かすことで衝突を回避しています。

また、盤上に 31 から 97、21 から 98、12 から 89、13 から 79 へ伸びる 4 本の斜線を引いてみてください。これは馬の動く位置ですから、矢印の終点は必ずこの 4 本の線のどれかの上になくはいけません。(14 から 69 の線上に乗っても構いませんが、遠回りになります。)

初形で 11 桂と 22 桂はこの 4 本の線上にはありません。この 2 枚は横には動かさない(11 馬や 22 馬は王手にならない)ので、一旦 12 から 89 への線の上に乗る必要があります。すると桂 3 枚はすべて、一度は盤の右斜め半分に住ることになるわけです。目指す形は 64 桂・54 桂ですから、このうち最低 2 枚は斜めの動きによって、盤の左斜め半分に移さねばなりません。つまり、桂の斜めの移動を最低 2 回含み、残りは縦横の移動のみ、できれば「後退」を含まない手順を求める……これが解図の目標です。

そして、作意手順は上記の要請をすべて満たしています。作意以外に上記の条件を満たす手順がない(あったとしても作意より手数が多い)ことの証明まではできませんが、作意の一見不可思議な桂の軌跡が、実は合理的なものであることを理解していただきたいと思います。

本局は原図から 5 年の歳月を経て完成された作品ですが、上田氏と橋氏の邂逅がなければこのような進展はなく、本図の登場には更なる年月を要したでしょう。詰将棋は一人でもできる趣味ですが、詰棋人同士に交流があることで生まれてくる作品もあるのです。

【短評】

橋圭伍さん

PWC ルールはこういう事がやりたくて作ったので 2 作目にしてやりたい事がなくなった感じです(笑)

一番初めに上田氏作を見れたので私が発表する事になっただけだと思っています。

たくぼんさん

ややこしいの一言。途中図を書いておかないと訳がわからなくなるだろう。内容は見事でしたが疲れました。

☆ 三桂が複雑に絡み合うこの迷路を見事突破したのは、たくぼんさん。さすがです！

■ 57-10 上田吉一氏作（正解2名）

PWC協力自玉詰 102手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
將										二
										三
										四
									金	五
									角	六
						王			歩	七
				銀					王	八
							飛			九

攻方持駒なし
受方持駒なし

【解答】

38 飛 19 玉 18 飛 同歩成/17 飛 同飛/17 と 29 玉
38 角 18 玉/29 飛 27 角 29 玉/18 飛 28 飛 同と/17 飛
18 角 19 玉 72 角生 18 と 同飛/17 と 29 玉
83 角生 同銀/92 角 28 飛 19 玉 29 飛 18 玉
81 角生 29 玉/18 飛 28 飛 同と/17 飛 18 角生 19 玉
63 角生 18 と 同飛/17 と 29 玉 74 角生 同銀/83 角
28 飛 19 玉 29 飛 18 玉 72 角生 29 玉/18 飛
28 飛 同と/17 飛 18 角生 19 玉 54 角 18 と
同飛/17 と 29 玉 65 角 同銀/74 角 28 飛 19 玉
29 飛 18 玉 63 角生 29 玉/18 飛 28 飛 同と/17 飛
18 角生 19 玉 45 角 18 と 同飛/17 と 29 玉
56 角 同銀/65 角 28 飛 19 玉 29 飛 18 玉
54 角 29 玉/18 飛 28 飛 同と/17 飛 18 角 19 玉
36 角 18 と 同飛/17 と 29 玉 47 角 同銀生/56 角
28 飛 19 玉 29 飛 18 玉 45 角 27 と
同角/45 と 29 玉/18 飛 38 角 同銀生/47 角 28 飛 19 玉
29 飛 18 玉 28 飛 17 玉 27 飛 同銀成/38 飛
まで 102 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
						ス			金	五
										六
						角	王	王	王	七
						銀	飛			八
										九

攻方持駒なし
受方持駒なし

【解説】

上田吉一氏の本展への初登場となる作品です。右下隅にある一群の駒と、ポツンと離れた場所にある銀の配置から「極光」第 45 番を連想した方も多いのではないのでしょうか。

[参考図] 上田吉一作 「極光」第 45 番
(詰将棋パラダイス 1976 年 12 月号、
百人一局集・長編賞受賞)

詰将棋 69手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
角										三
										四
										五
						歩	銀	歩		六
						桂	桂	王	王	七
										八
						ス		飛		九

持駒 角 金 銀 2 歩

(※本図は「極光 21」第 74 番に収録された
修正図 (69 と追加)。手順は本稿の末尾に)

形が似ているだけではなく、実は手順にも共通性があります。「極光」第 45 番は角を使って成銀を呼び出す作品ですが、本局は角を使って生銀を呼び出す作品なのです。

しかし PWC で呼び出し趣向を行おうとすると、困ったことが起こります。それは、駒が消えないことです。通常の「呼び出し」では、ある駒を捨てて駒を近づけ、何らかの方法で、捨てた駒を補充します。ところが、PWC では駒が消えないために、駒を補充することができません。更に悪いことに、PWC では呼び出しに使う駒が呼び出される駒の背後に隠れてしまいます(本局の場合だと、角を銀に取らせると、その角は銀の陰に隠れてしまう)。呼び出し手順を繰り返すためには、この角を再度使えるようにしなければいけません。どうしたら良いでしょうか？

この問題点を解決する手段として、本局はバッテリー（開き王手ができる形）の構築と解体を繰り返すという斬新な手法を用いています。銀を呼び出す筋は 92 から 29 を繋ぐ斜線上ですが、その（角にとっての）隣の斜線、すなわち 81 から 18 を繋ぐ斜線を角の往復路として活用

推理将棋『人生いろいろ』

し、角の位置を調整します。そのために「飛」と「と金」が頻繁に位置を変え、往路は開き王手で角を銀の直前に横づけし、復路は角が銀の後ろから戻って飛と角によるバッテリーを組み直します。PWCでなくては容易には実現できそうにない凝った機構ですね。

本局は呼び出し趣向を繰り返す主部だけでなく、序奏や収束も充実しています。序奏は機構の中心をなす重要なパーツである「と金」を生成するところから始まり、飛と角の位置を調整して開き王手の準備を整えます。PWCに慣れていないと、この序奏だけでも難しいと思います。また、収束は趣向で必要な駒を活用し、収束のためだけの配置は一切ありません。「と金」は角との位置交換で脱出防止に活用され、呼び出しの主役の「銀」は自玉のトドメを刺すのに使われます。趣向自体が面白く、序奏・収束に一切余計な駒を使わない——これは趣向作の理想の姿の一つです。

【短評】

橘圭伍さん

盤上の駒を動かすだけなので簡単に見えたのですが実際解くのはかなり大変でした。この開き王手で駒を呼んでくる作品としては過去にもず氏と神無七郎氏がキルケでやっていますが PWC で見るとまた違った感じで面白いですね。

☆キルケの場合は戻り位置が決まっているので、構図は制限されますが、呼び出しを実現する仕組み自体は簡単にできますね。PWCだと「呼び出し」を繰り返す仕組みを作るのは大変だと思うのですが、本局はとても巧妙にその問題を解決していると思います。

たくぼんさん

直接ではなく一步前の位置で止まる感じが新鮮に感じます。

☆そういえば、開き王手で駒を取れる直前で止まるという手順は、あまり見た記憶がないですね。フェアリーだけではなく、普通詰将棋でもそんな手順が実現できれば結構新鮮だと思います。

「完敗だ。駒をぼろぼろ取られて 66 手で負かされたよ。途中、大駒を 2 枚取られたとき先手陣には未だ小駒が 5 種類残っているから勝負はこれからと思ったんだけど・・・」

「何枚ぐらい駒を取られたの？」

「連続王手で 16 枚も取られたよ。16 回目の王手では初手に動かした駒を取られた。このとき玉は 5 段目にいたんだけど、王手に対する応手は 5 筋の手だった」

「そんなに駒を取られて未だ投げずに粘ったのかい？」

「そうなんだ。でも取る駒がなくなった後、今度は 16 回連続して駒を打つ連続王手をかけられた。金を続けて打たれたし、銀頭に駒を打たれた手が 3 回もあった。最後は詰まされたよ」

「それは残念。いくら打たれ強い君でも粘りきれなかったか。人生いろいろ、王手もいろいろあるね」

さて、どんな将棋だったのでしょか？

条件

- 1) 66 手で詰み。
- 2) 後手は 16 回連続して駒を取りながら王手をかけた。
- 3) 後手は 16 回連続して駒を打って王手をかけた。
- 4) 後手が 2 枚目の大駒を取ったとき、先手陣には 5 種類の小駒が残っていた。
- 5) 16 回目の王手は、初手に先手が動かした駒を取る手だった。そのとき、先手玉は 5 段目にいたが、王手に対する先手の応手は 5 筋の手だった。
- 6) 後手は金を続けて打った。
- 7) 後手は 3 回銀頭に駒を打った。

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する

【解答】

98 香 34 歩 36 歩 77 角成 58 玉 67 馬
48 玉 49 馬 37 玉 27 馬 46 玉 28 馬
37 桂 同馬 45 玉 36 馬 56 玉 47 馬

67 玉 57 馬 78 玉 79 馬 77 玉 88 馬
 67 玉 89 馬 78 金 同馬 76 玉 87 馬
 75 玉 97 馬 65 玉 98 馬 56 玉 65 銀
 55 玉 66 角 45 玉 44 香 34 玉 35 金
 23 玉 24 金 同玉 23 歩 同玉 22 歩
 24 玉 32 桂 35 玉 34 歩 同玉 33 歩
 43 玉 42 歩 53 玉 52 歩 63 玉 64 飛
 同玉 63 歩 同玉 62 歩 64 玉 72 桂
 まで 66 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	科	銀	桂	玉	科	科	科	科	香	一
		飛	桂	歩	歩	歩	科	歩		二
歩	歩	歩					歩	歩		三
			玉	歩						四
			銀							五
			馬							六
									歩	七
金										八
						銀			香	九

攻方持駒飛金2歩8
 受方持駒なし

【作者のコメント】

連続王手の駒取りを行った直後、その駒を全て打ち切るというテーマ(橘さん提案)に応じた作品です。前半4手目以降は、連続駒取り王手の16回で、後半は16枚の駒を打ち切る限定詰になります。

【解説】

連続王手の駒取りの後、取った駒を最短で全部使い切れ、という派手な条件のついた推理将棋です。後半の設定は自由度が高く、どういう手順にするかは作者の好み次第ですが、前半はほぼ手順に限られ、恣意的要素は少なくなります。つまり前半が究極の手順を求める探求型、後半が条件に合う手順を求める推理型の問題という、趣の異なった問題が合体したような作品です。

まずは前半から考えましょう。将棋の初形で、駒は概ね横に並んで配置されています。馬を作れば横に動いて駒を取り易いのですが、先に左辺の駒を取ると右辺に移るときに駒取りが途切れやすく、右辺の駒を先に取ると左辺に移りにくいという状況が生じます。3手目36歩は右辺から左辺に移る展開で駒取り王手が途切れな

いよう準備した手です。また、初手98香は隅の駒をなくして、「取りこぼし」を防ぐための準備です(隅の駒が取りにくいのは、本局の詰上り図で19香が残っていることから分かります)。この初手と3手目の手順前後は条件5)が防いでいます。

98香と36歩により連続王手駒取りの条件はクリアされ、今度は取った駒を使い切る後半部ですが、ここで問題発生。35手目作意で56玉とするとところから余詰が生じていました。指摘者は、たくぼん氏です。

[たくぼん氏の解](35手目から作意と分岐)

98 香 34 歩 36 歩 77 角成 58 玉 67 馬
 48 玉 49 馬 37 玉 27 馬 46 玉 28 馬
 37 桂 同馬 45 玉 36 馬 56 玉 47 馬
 67 玉 57 馬 78 玉 79 馬 77 玉 88 馬
 67 玉 89 馬 78 金 同馬 76 玉 87 馬
 75 玉 97 馬 65 玉 98 馬 55 玉 65 金
 45 玉 55 金打 34 玉 38 飛 23 玉 22 歩
 24 玉 32 桂 15 玉 14 銀 16 玉 27 角
 同玉 15 桂 38 玉 37 歩 同玉 36 歩
 同玉 35 歩 同玉 34 歩 同玉 33 歩
 43 玉 42 歩 53 玉 52 歩 63 玉 62 香
 まで 66 手

残念なことに「人生いろいろ」のはずが「手順もいろいろ」になってしまいました。

修正は簡単ではなく、作者からは条件の実質的な追加(条件6)と7)を、より厳しい条件にする)案が示されました。問題文の修正と合わせ、ここに紹介します。

[会話部分の修正]

...

「そんなに駒を取られて未だ投げずに粘ったのかい？」

「そうなんだ。でも取る駒がなくなった後、今度は16回続けて駒を打つ連続王手をかけられて結局詰まされたよ。連続して打たれた金を取り返して終図には残らなかった。でも、銀頭に3回打たれた手がきびしくてしびれたね。銀頭の3枚はいずれも終図に残っていたしね」

...

[条件の修正]

- 6) 後手は金を続けて打ったが、打った金はいずれも取られて終図に残っていなかった。
7) 後手は3回銀頭に駒を打ったが、銀頭の3枚はいずれも取られずに終図に残っていた。

この条件の修正はどちらか一つでも良いという可能性もありますが、それは未確認です。今後の検証を待ちたいと思います。

【短評】

たくぼんさん

作意までは手が回りませんでした。

☆ 余詰を見つけただけでも充分すぎるお手柄だと思います。

■ 57-12 一乗谷酔象氏作 (実質正解者なし)

推理将棋『明日があるさ』

「駒をぼろぼろ取られた後ぺたぺた打たれて70手で負かされたよ」

「何枚ぐらい駒を取られたの？」

「連続王手で17枚も取られたよ」

「そんなに駒を取られて未だ投げずに粘ったのかい？」

「そうなんだ。でも、取る駒がなくなった後、今度は17回連続して駒を打つ連続王手をかけられたんだ。初手の着手地点に飛車を打たれる手もあった。最後詰まされたとき一つの筋には駒が8枚もあった」

「残念な一局だったね。でも、駒柱詰を免れたのがせめてもの救いだ。明日があるさ」

さて、どんな将棋だったのでしょか？

条件

- 5) 70手で詰んだ。
6) 後手は17回連続して駒を取りながら王手をかけた後、17回連続して駒を打って王手をかけた。
7) 終図では一つの筋に駒が8枚あった。
8) 初手の着手地点に飛車を打った。

【解説】

本局は作者以外の正解者がいませんでした。このまま解答を発表してしまうのは勿体ないので、締切を延長して第58回作品展と同じ締切

に設定し、再度解答募集を行いたいと思います。

前局の57-11は16回連続王手で駒取りを行うのが主題でした。3手目から先手が連続王手の駒取りを行う場合はこれが最大値なのですが、4手目から後手が連続王手の駒取りを行うのなら17回連続王手駒取りが可能です。そのため、その条件下での最大値を主題とした本局が生まれたのです。

同様に、5手目からなら何回以上可能なのかという疑問が生じますが、これは皆さんもご一緒にお考えください。

【短評】

たくぼんさん (※無解)

解けず。

17回連続駒取りは出来ましたが、1つの筋に8枚が難関でした。17回連続の手順にも成生非限定がありますので他の順があるのでしようがそれにたどり着けず。

☆ たくぼんさんの短評を見ると、連続駒取りより駒柱の方が難しかったみたいですね。17回連続駒取りを可能にするための初手と3手目は二通りの手段あるので、おそらくその選択が作意と異なった可能性もあります。

一乗谷酔象さん

果たして70手が4条件で限定できているでしょうか。

この手数指定(16枚-66手、17枚-70手)だと、「連続駒打ち」の条件のみでよさそうですね。駒取りは必然なので。

☆ 確かに手数の割に条件が少ないのは心配ですね。本誌読者の皆様の解答と検証を待ちたいと思います。

☆ ちょっと話は逸れますが、ふと、推理将棋はクイズ形式にも応用できそうに思いました。問題の基本設定だけ提示し、解答者にYes/Noで答えられる質問をして貰い、手順を当てさせるのです。例えば「7手で詰みました。どんな手順でしょう？」と出題されたら、「歩成はありましたか？」などの質問で答えを絞っていくわけです。推理将棋の熟達者なら有利そうですが、どうでしょうね？

【総評等】

変寝夢さん

今月は8が解けたのは嬉しい誤算です。

橘圭伍さん

毎回、推理将棋を解く頃に次のWFPが出てきて浮気→解けずという流れ。

今回は、氾濫でしたが。

萩絵氏の協力詰はシンプルなのに美しかったですね。今後の作品が楽しみです。

ぼこさん

今回は協力3手詰集もあり、手数も短いものが多かったので気軽な感じで挑戦してみました。まだまだ長編には全く手も足も出ない私にとって、このくらいの作品だと解こうという意欲がわきます・・・

まあ、実際には締め切りギリギリに出している現状でお察しください。

たくぼんさん

なかなか全解出来ず無念です。

DD++さん

解く時間がないので、ささっと解けたものだけでごめんなさい……。

☆今回は後半の問題が難しく、「師走」の時間不足も災いして、皆さん苦戦されたようです。かくいう私も事情により執筆が滞り、今回の原稿も締切間際になってしまいました。こういう時は不備がある可能性が高いので、問題がありましたら遠慮なくご指摘願います。

〔参考図〕上田吉一作 「極光」第45番
 (「極光21」第74番) 解答

詰将棋 69手

										一
		馬								二
角										三
										四
										五
				歩	銀	歩				六
				桂	桂	王	龍			七
				桂	桂	王	龍			八
		王		飛						九

持駒 角 金 銀 2 歩

29 金 同龍 37 銀 17 玉 28 銀打 同龍
 同銀 同玉 29 飛打 17 玉 19 飛 28 玉
 82 角成 同全 29 飛右 17 玉 71 角 62 角
 同角成 18 玉 19 飛 28 玉 73 馬 同全
 29 飛右 17 玉 62 角 53 角 同角成 18 玉
 19 飛 28 玉 64 馬 同全 29 飛右 17 玉
 53 角 44 角 同角成 18 玉 19 飛 28 玉
 55 馬 同全 29 飛右 17 玉 44 角 35 角
 同角 18 玉 19 飛 28 玉 46 角 同全
 29 飛右 17 玉 35 角 26 歩 18 歩 同玉
 19 飛 28 玉 46 角 37 桂 29 飛左 38 玉
 49 銀 同桂成 28 飛 まで 69 手

以上



推理将棋第7 2回出題解説

担当：DD++

出題：平成 24 年 10 月 23 日
 解答締切：平成 25 年 11 月 20 日

桂馬特集、いかがだったでしょうか。ダブル上級は桂馬よりむしろ先手金銀に惑わされた方が多いようですが。

7 2-1 初級 DD++作 早馬 9手

「昨日 9 手で詰まして勝ったんだって？」
 「うん。飛車の手があったんだけどそれより前に 7～9 筋全てに桂馬の着手があったよ」
 さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 9 手で詰んだ
- ・ 飛車の手より前に 7～9 筋全てに桂馬の着手があった

出題のことば (担当 DD++)

初級ですから、素直に考えて大丈夫です。
 追加ヒント

9 筋桂に何の意味があるかという、93 桂とすれば 73 地点の防御が消えるわけです。

推理将棋 7 2-1 解答

▲ 7 六歩 ▽ 9 四歩 ▲ 7 七桂 ▽ 9 三桂
 ▲ 8 五桂 ▽ 5 二飛 ▲ 5 五角 ▽ 6 二玉
 ▲ 7 三角成 まで 9 手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香		銀	金		金	銀	桂	香		一
			王	飛				角		二
科	歩	馬	歩	歩	歩	歩	歩	歩		三
歩										四
		桂								五
		歩								六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
								飛		八
香		銀	金	王	金	銀	桂	香		九

持駒 歩

桂馬問題ウォーミングアップ。桂馬の手が早々に 3 回必要です。▲96 歩▲97 桂▲85 桂▲73 桂成あたりが目につきますが、73 桂成の後に飛を指さなくてはいけないので、「▲96 歩△74 歩▲97 桂△62 金▲85 桂△73 金▲同桂成不成△飛の手▲金打ち」くらいしか指せず、1 手足りません。

というわけで桂馬の条件は桂の活用効率度外視でさっさとクリアすることにしましょう。5 手目まで「▲76 歩△94 歩▲77 桂△93 桂▲85 桂」または「▲96 歩△74 歩▲97 桂△73 桂▲85 桂」。ここから飛車の手を含めて 4 手で詰めば正解です。

ここからはこの 2 手順の差異を見ればなんとなく想像つきますね。初手で 76 歩の方を突いてあればここから▲55 角▲73 角成とした手がちようど後手桂が跳ねてできた弱点に届きます。後手はそれで詰むように△52 飛から△62 玉で大丈夫。

それではみなさんの短評をどうぞ。

NAO 「55 角から 73 角成の筋は余詰筋で出てくるんですね。1 条件でまとまるとは目から鱗です。」

■私自身も作ってみてからびっくりしました。2 条件にするつもりで作り始めたので。

斧間徳子「第一感は、96 歩～97→85→73 桂(駒取り)～駒打ちだったが外れ。よくある詰み型だが、条件が巧妙。」

■とても意外なことなのですが、実は▲73 桂成または▲73 桂不成を含む 9 手詰手順は存在しないようです。

やまかん「攻め方の飛車を使うのは無理かな？と思ったら自然に解答手順がみえてきました。」

■短手数推理将棋で飛車とあったら大抵玉方ですね。攻方だとしたら自陣から睨みを利かす程度。

EOG 「条件の出し方がうまい。」

■百問以上作っているとさすがにこういう小手先の技術も身につくというものです。

まさ 「基本手筋ですね。」

■見た瞬間解けたという方も多いのではないかと

と思います。

鈴木優希「非限定が多いことで有名なこの筋を1条件でまとめるとは。」

■8筋着手と6手目以降の飛車を確定させると一気に非限定は少なくなるんです、この順。

占魚亭「53成桂・43or63桂の形が第一感でした。」

■その形は10手からですね。5手目65桂の時に後手桂が65には間に合わないの。

S.Kimura「桂馬を動かす順序を少し考えましたが、「素直に考えて」解けました。」

■もし中上級ならこんな条件で桂をギリギリまで引っ張ったりして。

渡辺「これは慣れれば簡単。」

■特に創作側の方は余詰順として常に警戒する順ですしね。

隅の老人B「条件通りに桂を動かしてみる、あれ、詰んじゃった。」

■初級の感想としては一番嬉しい感想です。軽快に1問解いてもらうのが初級の役目なので。

はらたつ「たくさんの手順前後と非限定を一気に解消させる条件付けが見事です。」

■作り始めた時はまさか1条件にできると思っていなかったの、掘り出し物でした。

波多野賢太郎「9三桂によって7三の効きがなくなる、というヒントのおかげで解けました。桂馬の指し手条件だけでここまで決まるものなんですね。」

■今回の場合は加えて6手目以降に飛車というのが大きいです。これが金だと指す順番がもつとバラバラにできてしまうので。

しまぎろう「1条件で全て限定できてて、いいです。」

■解くのは簡単、でもこういう1条件を作るのは至難……。

ひろぼん「桂馬のスピード感がいいですね。」

■まさにタイトル通りでしょう？

chemical「76歩が角桂両方の出口って所がミソですね。」

■先後逆だと△32飛▲33角成から飛角桂3枚の出口になる荒業も成立します。

鈴木康夫「85桂の利きを生かして73角成までは直ぐに予想が付きましたが、何故か解けず数日経ってから再開したら何故かあっさり解けました。」

■そこまで見えてなぜ解けなかったのか、逆に気になりますね。

変寝夢「いやーPCでの条件設定なかなか大変でした。XXの前にXXというのが曖昧なもので。とりあえず8手目までで桂の手が3回、7,8,9筋の桂が1回ずつ、初手は76歩で複数解を出力。その中から手動で選別。という流れで1億3千万局面17時間でした。豆腐の角に頭をぶつけるようなラスト2手が大好きです。」

■「6手目時点で桂の手がなければNG」「8手目時点または飛の手出現時点で789筋桂各1回以上なければNG」「最後までに飛の手がなかったらNG」に分解したらいけませんかね？最初のは5手目22角や6手目88角とする順の7手目8手目角打ち総当りをまるごと削る目的で。

諏訪冬葉「5手目までに桂馬の条件を満たせば6手目に飛車が動かせるのに気付くまでに半日かかりました」

■条件でタイトルの「早馬」が龍馬ではなく桂馬のことであると気づけばもう少し早かったでしょうかね。

はなさかしろう「73の防御を外す△93桂。簡潔で美しい問題のはずなのですが…この形に思い至るまで結構かかりました。」

■3手目▲97桂からの7手目▲73桂成を考えたちゃいました？

橘圭伍「次作に合わせて急造した作品か？」

■いえ、前から初級の穴埋め用に作っていつでも使える用リストに放り込んであった作品です。

チャンプ「一条件しかないのに、うっかり条件違反をしそうになりました(笑)」

■一体何をしそうになったんですか(笑)

正解：21名

EOG さん S.Kimura さん 斧間徳子さん
chemical さん しまぎろうさん 鈴川優希さん
鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん
占魚亭さん 橋圭伍さん チャンプさん
NAOさん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん
はらたっとさん ひろぼんさん 変寝夢さん
まささん やまかんさん 渡辺さん

7 2-2 上級 chemical さん作
桂の四変化(A) 16手

- A「さっきの将棋、桂不成、桂成、桂打ち、成桂の順で王手を指されたよ。」
- B「同じ将棋かな。私の将棋は6筋の手と八段目の手がそれぞれ6回あったね。」
- A「それも同じだね。5手目に左金、15手目に右金を動かした手が敗因かな。」
- B「それで、最後は、48で詰まされたよ」
- A「僕は69だよ。」
- B「え!」
- A「似てるけど、違うみたいだね。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・16手で69にいる玉が詰んだ
 - ・後手が桂不成、桂成、桂打ち、成桂の手の順で王手をかけた
 - ・5手目は左金、15手目は右金を動かした
 - ・6筋の手と八段目の手がそれぞれ6回あった
- ※68 地点の手があれば6筋の手と八段目の手両方にカウントします。

出題のことば (担当 DD++)

後手の着手内容から見当をつけるのが早いかもしれません。

追加ヒント

77 桂不成を79玉とかわして89桂成。金銀の手は初手左金と7手目銀もあわせて計4回

推理将棋 7 2-2 解答 担当 DD++

▲6八金 △7四歩 ▲6九玉 △7三桂
▲5八金寄 △6五桂 ▲6八銀 △7七桂不成
▲7九玉 △8九桂成 ▲7八玉 △6六桂
▲6九玉 △8八成桂 ▲5九金寄 △7八成桂
まで16手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇		飛	手	王	手	飛	科	皇		一
	飛							皇		二
手	手		手	手	手	手	手	手	手	三
		手								四
										五
			科							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
		手	銀	金				飛		八
香			王	金			銀	桂	香	九

持駒 なし

16手、とはいえ後手のやることははっきりしています。6手目桂不成は不可能で、一方14手目に王手をかけると15手目に困ってしまうので、8手目桂不成王手、10手目桂成王手、12手目桂打ち王手、16手目成桂の王手しかありません。また、6筋の手を6回も指さなくては行けないので81の桂が跳ねてくること、そして先手左桂を取ることも間違いなさそうですね。

そしてもう1つ、ポイントは八段目の手です。後手は12手目まで、歩を突いて桂の四段跳ねからの桂打ちです。ここに八段目の手をさせる手は1回もありません。つまり先手は最低でも4回八段目の手を指す必要があります。言い方を変えると先手は八段目以外の手を4回までしか指せません。ここまで両題共通のアプローチ。

さて、Aの方は69地点で詰み。これが後手桂の成る位置を決定します。後手桂が10手目に69に成ると最後の玉移動チャンスである13手目時点でまだ成桂が69にいて69玉が指せません。かといって81から来て49桂成だと桂を取れないので、桂成は89しかありませんね。その前が当然77桂不成だと考えると、中盤の手順が「▲69玉～△77桂不成▲79玉△89桂成」と見えてきます。

すると先手は、1回目の▲69 玉、逃げて▲79 玉、最終位置へ行く2回めの▲69 玉、59 地点を塞ぐ手、これで八段目以外の手は使いきります。同時に後手も最後の2手は△88 成桂△78 桂でないと回数が足りませんね。

さて、一度全体を整理してみましょう。「▲何か△74or94 歩▲何か△73or93 桂▲左金△65or85 桂▲何か△77 桂不成▲79 玉△89 桂成▲78 玉△66or46 桂▲69 玉△88 成桂▲右金△78 桂成」で、7手目までに▲69 玉と▲68 銀があり、どこかで▲59 何かがある、というところまではすぐにたどり着きます。

あとは6筋との回数ですが、後手は最大2回しか指せないの为先手は最低でも4回。しかしスペースは68 地点と69 地点しかありませんので、6筋にある駒を動かしてスペースを開ける手も3回必要になります。79 玉が78 へ動く手と初めて右金が動く手はどちらにもなりえないので、先手はどこかで6筋の駒を6筋へ動かす手を指すこととなります。

しかしここで邪魔になるのが▲68 銀の一手。これを指してしまった後はもう6筋から6筋への手を指すのは不可能です。ということは6筋から6筋への手はそれより早く済ませる必要があります。「▲68 玉▲59 金左▲69 玉▲68 銀」だと5手目左金になりませんので、「▲68 金▲69 玉▲58 金寄▲68 銀」の方。あとは15手目▲59 金寄とすれば答えにたどり着きます。

それではみなさんの短評をどうぞ。

chemical (作者) 「手数が長くて、条件も多いので、もっとシンプルにまとめたいです。」

■桂の四変化は14手ではギリギリ詰まないようですが15手なら確実にできるので、そっちで作ればもうちょっとスッキリしたかもしれませんね。ツインではなくなりますが。

NAO 「ツインでなければなんとなく58 金左～48 金寄としたい感触もあって、初手68 金は違和感がありました。きわどい着手(68 銀、68 玉等)からは6筋着手6回で割り切れているのでしょうか。」

■はい、割りきれれています。詳しくは解説を御覧ください。

斧間徳子「先手の序の4手をどう動かすかという問題だが、68 金～58 金左が妙手順。」

■いきなり68 金は今後のことを考えるととても抵抗がある手ですよ。

やまかん「先手の手を限定させる左金の動きと66 桂がポイントですね。」

■そうです、特に初手68 金がないと何もかもがうまくいきません。

EOG 「この条件で金の動きが限定されてしまうとは。」

■67 歩を動かさないのが強く利いています。

まさ 「72-3 は手なりで詰んだがこちらは難しく、以下の通り考えました。

6筋回数を増やすためにも81 桂が65 経由で動き先手桂を取りながら王手する。

桂打の王手に右金移動で対応したとは考えられない。

以上より6手目65 桂(王手)、8手目77 桂生(王手)、10手目桂成(王手)、12手目桂打(王手)、16手目桂成(詰)。

10手目69 桂成では、この成桂を取らない限り69 玉では詰まないが、取ると駒不足は明らか。よって9手目79 玉、10手目89 桂成は必然で、詰み形を想定すると以下の順が本線。

X(何か)、74 歩、68 銀、73 桂、58 金左、65 桂、69 玉、77 桂生、79 玉、89 桂成、78 玉、66 桂、69 玉、88 成桂、59 金寄、78 成桂まで。

これで回数を数えると6筋も8段目も5回。よってX=68でなければならないがそれでは3手目68 銀と指せない。

??となってから順番入れ替えで68 金～58 金寄ができることに気づきました。

このように理詰めで追えて手順も工夫がある好作だと思います。

個人的にはあまりツインは好きでないのですが、こちらの単独出題でもよかった気がします。」

■16 手でありながら後手着手はするする決定

するのも好ましいです。

鈴川優希「序盤の駒組みが無駄手ながらも緻密。条件を一つ一つ確認する作業が必要でした。」

■特に6回を数えるのはちょっと大変。

占魚亭「左金をすぐに58に上げるのではなく、一旦68に上げるのが盲点でした。」

■5手目左金の条件がうまいことミスリードになってます

S.Kimura「詰む形は分かったのですが、6筋が5回にしかならず、苦勞しました。7手目に銀を動かす発想が湧かず、68金から58金寄が浮かびませんでした。」

■68地点を序に2回稼げるというのもパツとは思いつきませんものね。

隅の老人B「桂を使つての王手、まさか4連続じゃないでしょね。」

■その場合桂打ちに同金になるので……。左右逆なら角のアシストを使えばできるのかもしれませんが。

はらたつと「後手の手は絞れるので、6筋、8段目6回というパズルに先手の手を当てはめるのが苦勞しました。」

■一筋縄にいかないんですよ、この先手の順。

波多野賢太郎「こちらヒントが親切なおかげで、詰上がりイメージしたら解けました。桂馬の四変化とは、よく考えるものですね。」

■ヒントありとはいえ推理将棋初挑戦でこれが解けるのはすごいです。そこそこ難しい作品のはずなのですが。

鈴木康夫「詰み形は最初に並べた時に分りました。後は回数条件を満たすようにするだけでしたが、これに一苦勞。これで限定できているのか、余詰感がして不安です。」

■かなり際どいですがセーフです。私も余詰検

討になんだかんだで2ヶ月くらいかかりました。

はなさかしろう「こちらの方が後まわしになったので、角を使う手順を成立させたかったのですが、金条件と段筋条件をどうしても満たせず断念。89で桂を取る方でしたか。余った一手で条件に合わせ込むツインならではの初手でした。」

■この条件で34歩からはさすがに無理がありますって。

橘圭伍「桂を何処で取るかが肝。6回の確認は手間だったり。今後の創作ではなるべく、避けようと思いました」

■9手中6回とかならいいんですが、半分弱が一番数えにくいですね。

正解：17名

EOGさん S.Kimuraさん 斧間徳子さん
chemicalさん しまぎろうさん 鈴川優希さん
鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 占魚亭さん
橘圭伍さん チャンプさん NAOさん
波多野賢太郎さん はらたつとさん まささん
やまかんさん 渡辺さん

7 2-3 上級 chemicalさん作 桂の四変化(B) 16手

7 2-2と同じ会話

(条件)

- ・16手で48にいる玉が詰んだ
- ・後手が桂不成、桂成、桂打ち、成桂の手の順で王手をかけた
- ・5手目は左金、15手目は右金を動かした
- ・6筋の手と八段目の手がそれぞれ6回あった

※68地点の手があれば6筋の手と八段目の手両方にカウントします。

出題のことば (担当 DD++)

Aの条件とは最終玉位置の違いのみですがもちろん手順はかなり違います。

追加ヒント

77 桂不成を 59 玉とかわして 69 桂成。金銀の手は表出の 2 回だけ。

推理将棋 7 2-3 解答 担当 DD++

▲ 7 六歩 ▼ 7 四歩 ▲ 7 七桂 ▼ 7 三桂 ▲ 6 八金 ▼ 6 五桂 ▲ 6 九玉 ▼ 7 七桂不成 ▲ 5 九玉 ▼ 6 九桂成 ▲ 5 八玉 ▼ 6 六桂 ▲ 4 八玉 ▼ 6 八成桂 ▲ 3 八金 ▼ 5 八成桂 まで 16 手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇		銀	金	王	銀	金	皇		
二		飛						皇		
三	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四			歩							
五										
六			歩	科						
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八		角			手	王	金	飛		
九	香		銀				銀	桂	香	

持駒 なし

8 手目桂不成王手、10 手目桂成王手、12 手目桂打ち王手、16 手目成桂、81 の桂が跳ねてくること、そして先手左桂を取ること、先手は八段目以外の手を 4 回までしか指せないこと。ここまで前題と共通。

B の方は 48 で詰み。ということは、今度は 89 桂成では遠すぎるので 69 桂成ですね。ただし、これだと 89 で桂が取れないので先手が 77 桂を跳ねてやる必要があります。ということは 7 手目までに玉を 69 に移動するには「▲76 歩 ▲77 桂▲左金▲69 玉」とする順だけ。

あとは 5 手目▲78 金に 11 手目▲68 玉だと 6 筋 6 回に八段目 7 回とオーバーしてしまうことに注意して、5 手目▲68 金 11 手目▲59 玉とすることにさえ気づけば手なりで詰みますね。こちらの方が楽だと検討をつけて先に B を解いた方も数名いらっしゃったようです。

しかし、そんな油断が災いしたのか、誤記なのか間違いなのか判断しにくい解答がちらほら。

判断基準として、「解答手順がその棋譜通りに指せてしまう場合は誤解と判断して不正解、その棋譜通りに指せない場合でその手だけ修正すれば作意になる場合は誤記と判断して正解」とさせていただきます。

それではみなさんの短評をどうぞ。

NAO 「こちらの手順は 76 歩～77 桂なので、自然に浮かびました。桂 4 変化も無理のない順番で助かりました。最後が不成の条件だと混乱しそうです。」

■桂成→桂打ち→成桂→桂不成とかだと何が何だかわからなくなりますね。

斧間徳子「ものすごく非限定が多い手順なのだが、簡潔な条件で一通りに限定されていることに感心。」

■しかもこれを A と共通の限定条件でやってのけるという。

やまかん 「全然分からないのでやけくそで 76 歩、77 桂を試したら解けた。最後の方で 8 段目ラッシュが出来るとは。」

■むしろ最初に八段目を指しすぎると最後にオーバーします。

EOG 「2 問目を解こうとしたら、こちらが解けてしまった。」

■A を「69 で詰むなら成桂を 69 近くに作りたい」と考えちゃったわけですね。

占魚亭 「今度こそ左金は 58 に上がると思ったんだけどなあ (笑)。」

■私は逆に 78 に上がるものだとばかり。

S.Kimura 「72-2 を考えていて、先手が 77 桂として取らせることもできることに気が付き、やってみたら、うまく解けてしまいました。」

■差異が最終局面の条件だけのツインはそういうことにもなりがち。

渡辺「(2問まとめて)「桂と金の条件は巧くこの長手数に絞込み可能にしている妙案。桂打の王手に対して金の移動は王手回避にならないから、桂の王手は8、10、12、16手目と決定できるのがミソ。76歩、34歩、77桂、同角成、68金から5段目に桂を打つのは2枚目の桂が取れなくて桂打の王手ができないので後手は自前で桂を跳ねて行くしかない。

ただ、この手数で6筋8段6回を数えさせるのは酷なのでもう少し条件の工夫のしどころかと思えます。例えば、詰み位置を明かさず「15手目の右金の移動を68に指定」、6回の条件をやめて「1筋の着手2回」でどうでしょうか？

他には、詰み位置を明かさず最後の成桂の王手を「9段目の成桂を同成桂と移動」、6回の条件をやめて「6手目と9手目は同じ筋」という手も考えられます。」

■6回条件がないと別手順余詰がかなりきつそうな印象です。打った桂を14手目に成ってそっちの成桂を動かす順とか、左右逆にして14手目に66角や77角成が飛んでくる順も消さないといけないので。それでも上手いことすれば限定はできるのかもしれませんが。

隅の老人B「自信はないが、この手順でどうかな？15手目の右金、左金が消えていてはダメでしょうね。」

■いえいえ大丈夫ですよ。右金を取られて取り返してから打ったものを、とまでなるとさすがに判断に迷いますが。

波多野賢太郎「6九に桂成で王手、ということで先手も桂馬を跳ねておかないといけない、ということで考えたら解けました。ほとんど同じ条件で、全く違う指し手のツイン作はすごいですね。」

■ベテランの所業です。あれ、でもchemicalさん初作品のはず……？

しまぎろう「(2・3合わせての評)この条件で全て限定&ツインになっているのは本当にすごいと思います！！」

■条件付けには並々ならぬ苦勞をされたのではないかと思います。

鈴木康夫「6筋の手を生かすためには66桂58成桂が必然。これも限定できているのか、余詰感がして不安です。両問ともテキストエディタに棋譜をペーストして「6」「8」で検索して色が変わった部分を数えて確認しました。「同」が無くて助かりました。」

■こちらは6筋から離れていくので余詰については比較的安全です。

はなさかしろう「素直に動かすと48玉を詰ますことにはなりますが、こちらの方が▲76歩を突くなど手がかかるんですね。」

■主戦場と詰み場所がずれているので同時に整えることができないんですね。

橘圭伍「桂取る位置が変わる分、玉金銀着手が1回減る。詰み形作りに使える手が1回減るので場所が変わるという事か？」

■いえ、歩を突くために2回減ります。79銀を動かさないため桂が69に成ることになって邪魔になるわけですね。

正解：14名

EOGさん S.Kimuraさん 斧間徳子さん
chemicalさん しまぎろうさん 鈴木康夫さん
隅の老人Bさん 占魚亭さん 橘圭伍さん
チャンプさん NAOさん 波多野賢太郎さん
やまかんさん 渡辺さん

総評

NAO「早いものでもう年賀詰の季節ですか。『馬』条件はつくりやすそう。26馬まで11手詰とか14馬まで11手詰とか……」

■しかしその分手順のバッティングが怖いです。

斧間徳子「桂馬特集、楽しめました。上級2題の作者は初入選とのことですが、この2題を詰み位置だけ異なる同条件でまとめる凄腕は、超ベテランのものとしか考えられない。」

■実はAの方は最初の投稿時は68で詰む順で、玉位置も対称でした。最初の狙いの付け方からしてベテランのやることですよこれ。余詰が消

しきれず 69 に変更せざるをえなかったのが本当に残念。

やまかん「今回はトップ解答を目指したのですが上級が難しく先を越されてしまいました。この条件だと暗算では解きにくいですね。個人的には 11 手、12 手くらいまでが解図欲をそそります。 それではお願いします。」

■中級 10 手～11 手、上級 11 手～13 手くらいがいちばんちょうどいいのでしょうね。条件の付け方にもよりますが。

まさ 「桂馬の活躍する特集ですね。」

■桂馬が活躍する頃は独特の順になるので担当としては特集しやすいです。

鈴川優希「推理将棋では桂馬は意外と重要な駒ですね。条件に駒種を明かさなければ難問にもなりそうです。これからも解けた時には解答していきたいです。」

■先後両方跳ねて▲65 桂△同桂から△桂打ちができるので、「同種駒の手が○回」という条件で桂というのはよくありますね。

隅の老人 B 「3 題の出題で、自信のある解答は 1 題だけ、ああ、情けない。上級の 2 題は手順を決めてから、幾度もその条件読み返す。そして、何処か違っている、そんな気持ちが動きます。まあ良いや、そんな解答、よろしく、です。」

■推理将棋は手順が見つければ正解だと確信できるのも解後感のよさにつながっているのも、その点だけはちょっと難ありだったかもしれませんね。

波多野賢太郎「ヒントのおかげで上級編まで解けました。推理将棋、面白かったです。何となく、バカ詰に似た感覚だなあと思いました。」

■先後協力してという点はまさにバカ詰。ただし王手義務がないのでバカ詰よりさらに奇抜な手が登場します。

しまぎろう 「今月は 3 題解けました！最近は相当ヒント頼みなので、今月のヒントにはとて

も助けられました。」

■うまいヒントを出すためにはどこが難所か見極めなくてはならないので実はけっこう苦労しているんですよ。

chemical「今月は桂馬尽くしですね。ということはお正月は龍馬尽くしかな。」

■もしかしたら 26 絡みの問題もあるかもしれませんが。

鈴木康夫「最近無精になって、締切日解答が増えています。今月は一応ヒント無しで解きました。」

■早くても遅くても間に合えば大丈夫です。無精になって解答送り忘れたとかでなければ。

変寝夢「2、3 は設定に問題があったか 7 六歩、7 四歩に的を絞ったのが裏目だったか。○○の前に○○という設定のものが苦手です。今後の課題です。」

■「A の前に B」は、「B はなし (B が出てきたら NG)」の部分に手を加えて「B が出てきた時は A を確認して満たしていなければ NG」にできればよさそうですが、どうでしょう。

チャンプ「今月は苦手な条件設定に大苦戦しました。chemical さん初入選おめでとうございます。これからも新人の方の投稿が増えてくるといいですね。」

■新人の方に限らず投稿が増えるとうれしいです。最近投稿があまりなくて作品がかなり不足しているので……。特に「これでもかというくらい簡単な初級用」「手応えはあるけど短手数な中級用」。

推理将棋第 7 2 回出題全解答者： 21 名
EOG さん S.Kimura さん 斧間徳子さん
chemical さん しまぎろうさん 鈴川優希さん
鈴木康夫さん 隅の老人 B さん 諏訪冬葉さん
占魚亭さん 橋圭伍さん チャンプさん
NAO さん 波多野賢太郎さん はなさかしろうさん
はらたつとさん ひろぼんさん 変寝夢さん まささん やまかんさん

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

1月15日(水)

年賀詰作品展

フェアリー作品 3 題、推理将棋 1 題

王手をかけると 1 手詰

推理将棋 4 題

強欲な世界

強欲協力詰 6 題

2月15日(土)

第 57 回 WFP 作品展 57-12 (再出題)

推理将棋 1 題

第 58 回 WFP 作品展

フェアリー作品 1 1 題

伝統ルールを改変する

伝統ルール、フェアリー作品 3 題

Fairy of the Forest #38課題発表 (再掲)

- 2013 年 11 月 20 日:課題発表:(協力詰)
攻方王または受方同一駒(玉を除く)
の複数回移動(途中成るのも可)
- 2014 年 01 月 15 日:投稿締切
- 2014 年 01 月 20 日:出題
- 2014 年 02 月 15 日:解答締切
- 2014 年 02 月 20 日:結果発表

■ 課題発表

同じ駒を2回以上回動かすというだけならばあまりにも簡単そうなので(例えば、37-08の攻方55銀が該当)、これに攻方王または受方駒という制約を加えます。

前回出題作で言えば、37-01の受方31金や37-02の受方12銀がこの条件を満たしています。ただし、受方玉の複数回移動は普通でしょうからこれ

は除くことにします。一方、攻方王の複数回移動は容易ではないでしょうから、これは含めることにします。

もちろん移動回数は多いほどよいですし、連続移動回数にチャレンジする方向もあるでしょう。また、複数駒の複数回移動も考えられるところです。

多くの方々のご投稿をお待ちしています。

(投稿先)

→酒井博久(sakai8kyuu@hotmail.com)

あとがき

現在建築業界は、超多忙なのです。仕事は数多く舞い込んでくるのですが、それをこなす職人さんが不足している状況で現場が前に進みません。11月からこの状況がはじまり年度末まではこの状態が続くそうです。ここのところほとんど休み無く働いていますが年が年ですのでいつまで体が持つことやら……。そんな中解図作業はお昼休みと寝る前にとってはいますがなかなか手が回らない状況になりつつあります。最近大作や長手数 of 推理将棋など興味深い作品が数多く世に出ております。それにリアルタイムでチャレンジできないのは解答者として寂しいことですので何とか時間をとって行きたいと思っていますが果たしてどうなることか。年末年始はさすがに休めそうですのでその辺りで一気に片付けたいと思っています。

今月号はなかなか面白いラインナップになっており是非今年最後のひと踏ん張りで解図に取り組んで頂きたいと思います。

たくぼん

2013 年 第 66 号

Web Fairy Paradise

非売品

平成二十五年十二月号

平成二十五年十二月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合せ先 takuji@dokidoki.ne.jp